

郵便電信

に巡查駐在所を設置す而して現今小樽市街には色内町、手宮町及入船町の三ヶ所に巡查交番所各一ヶ所あり

○明治二十五年七月より外國郵便爲替及明治二十六年二月より小包郵便取扱を開始し明治二十七年三月色内町、朝里村及祝津村の郵便受取所を廢し同年八月小樽三等郵便局と小樽二等電信局とを合併し小樽二等郵便電信局となり明治二十九年十一月より代金引換小包郵便取扱を開き同年市内及市外電話及遠距離電話線架設の爲め電話交換加入者を募りしに滿員となりしを以て逓信省の許可を得て色内町に交換所を建築落成しければ明治三十二年より實行の筈なり而して市内郵便物集配度数は明治二十八年以前は五度なりしか同年より七度となり又明治二十四年中小樽發郵便物個数は六十七万四千七百四十個なりしか明治二十九年中には一百五十四万二千六百七十七個を發し明治二十四年に比し二倍二分八厘餘の増加なり

○小樽市街の道路は降雨連日に瀕れば泥濘歩行に苦しむ所今猶少からずと雖とも明治二十四年港町より手宮町に至る街路の中央幅四間を車馬道とし其兩

道路

河川の築堤

側幅各九尺を人道に修築し往時の如く泥悪ならず其工費一万數千圓を要し其大部は民費を以て支辨せり又明治二十九年十月より着手せし入船町奥道路を開鑿す其延長六百七十三間餘にして同年花園町の道路をも開鑿せり

○手宮郡色内町と小樽郡堺町を境界するオコバチ川築堤は明治二十五年より着手し年を越へ落成せり其工費一万四千四百三十七圓九十六錢を要し勝納川堤防修築費明治二十六年度及同二十七年度に要せし金一百二十二圓十一錢七厘なり又入船川堤防修繕費右兩年度に四千二百五十參圓三十一錢五厘を要せり

○鐵道は明治十六年幌内炭山に全通し明治廿五年砂川、空知太間の鐵道開通し同年八月一日より室蘭に達し明治三十一年九月より上川郡旭川市街に全通せり蓋し是等鐵道の延長は小樽より各地へ需用品の供給を増し亦農産物を多額に小樽港より輸出するに至れり殊に明治三十一年一月より函樽鐵道株式會社は實地測量に着手したれば工事落成を告ぐるの曉は膽振國イナモリ俱知安原野ウチノ以東は勿論全延長の六分の需用品及農産物は小樽商家の手裡に歸すへしと云ふ小樽の將來亦多事なり

鐵道

波止場

○明治二十六年一月五日六日兩日の暴風激浪により港町及沙崎町海岸石垣道路並に南濱町船入場を破壊せられたれば工費一万三千三百八十五圓七十七錢を以て同年八月より修築工事に着手し未だ竣工せざるに十二月二十四日の暴風激浪に遭ひ既成工事を再び破壊せられまも明治二十七年及同二十八年に涉り修築の工を竣へたり

築港

○小樽港灣は既に埠頭、波止場及船入場の築造成り稍港灣の体裁をなすに至りしも一朝激浪怒濤に遭遇せは往々破損し且船舶の破損流失の虞あるを以て政府は明治二十九年より工費豫算額二百十八万圓を以て築港工事に着手し十ヶ年を以て竣工を期す此工事成るの曉は現時に比し船舶の碇泊安全にして亦多數の船艦を灣内に入るゝを得へし且近時船渠會社設立の出願中なれば海運の發達も豫期すべく將來開港場となすの準備整ふと云ふへし立てよ小樽港民汝の前途有望なり

海運

○小樽、増毛間の航運は冬期屢々杜絶すれば政府は明治二十一年より毎歲千五百圓を補助し明治二十四年まで繼續せしが産物の増加に伴ひ補助を俟たず

して航業を營むものあるの時運に向ひたれば小樽、増毛間の補助を明治二十四年より廢し増毛より北見國網走に至り焼尻、鬼鹿、鷺泊、香深の諸港へ往復寄港し十一月より翌年三月まで五ヶ月間一ヶ月二回航行の約を政府は天鹽北見運會社と結ひしを以て明治二十五年十一月九日天鹽九第一回の航海をなしたるも爾餘の航海は天候若くは流氷のため稚内又は紋別より逆航せり明治二十六年十一月より翌年三月に至る五ヶ月間は毎月二回北見國稚内及網走間を航行し枝幸、紋別へ寄港することとし一航海毎に百五十圓補助の約を定め同年十一月十五日天鹽九は小樽港を發して二十日網走に達せりされど爾餘の航海は天候不良なるより其目的を果さず鷺泊又は稚内より引返せり其後日本郵船會社は宗谷、増毛へ一ヶ月三回の定期航海をなせしも冬期は引揚げたり而るに明治三十一年より郵船會社は政府と約を結ひ根室より網走に航行し小樽と網走の關係は稍離隔せしかど小樽、稚内間は毎年四月より十月に至るまで毎月四回以上十一月より三月まで三ヶ月間は毎月一回以上航海し毎航往復とも増毛、焼尻、鬼鹿、鷺泊、香深に寄港し小樽、増毛、禮文、利尻、宗谷間及小樽、増毛間は三月中旬よ

り十一月中旬まで一月五回禮文、利尻、宗谷の三郡並に苫前郡の内燒尻は四月より十月まで一ヶ月二回の航路を開き青龍丸を以て航行と定めしも郵船會社は此契約の如くせば汽船を空しく使用せざる不利あれば冬期と雖とも絶へず天北地方の航海をなさしむと云ふ而して露領薩哈連島の要港コルサコフ及浦鹽斯德と小樽港との交通は明治二十九年大阪の大家七平政府と契約し函館より小樽を経てコルサコフへ毎月一回航行し又新潟を経て浦鹽斯德へ航行するを以て小樽よりコルサコフ及浦鹽斯德間の交通及貿易をなすを得へし又現今小樽港より天鹽、北見の兩國各港へ航海する日本郵船會社外の船舶は第一凌波丸、第二凌波丸、生田丸、男神丸、久保丸、明德丸、淡海丸、増毛丸、北見丸、北進丸、小樽丸等十一艘以上にして小樽より余市、古平、美國三港への往復船は北國丸、後志丸、美國丸の三艘あり又岩内、壽都、函館、青森への航行船は東運丸、北運丸、後志丸、蓬萊丸常に航海し土崎、酒田、新潟、佐渡、伏木、三國、敦賀へは大有丸、敬神丸、平安丸、浦戸丸、伊裝諸丸、新高知丸、太平丸、幸光丸等航海し、函館、神戸、大阪、越前、越中等よりの船舶時々出入し日本郵船會社は各地間の定期航海をなすによ

り運輸交通の便甚だ開けたり而して鉄道開通時代則ち明治十三年より同二十四年に至る十一ヶ年間に小樽港へ入港せし蒸氣船一ヶ年平均貳百八拾五艘八分強なるに明治二十四年より同三十年に至る七ヶ年間の發達時代には一ヶ年平均一千五百三十五艘六分弱にして鐵道開通時代に比するときは一ヶ年平均五倍三割七分強の増加を來せり之れに反し鐵道開通時代に於ける西洋形風帆船入港數一ヶ年の平均は百〇四艘四分強なるに發達時代には六十一艘四分強に減し毎歲四十三艘つゝ入港船數を減せり且日本形風帆船數は鐵道開通時代に於て一ヶ年平均入港せし船數一千三百五十二艘二分強なるに發達時代には二百八十五艘一分強に減し前時代に比し毎歲一千〇六十七艘一分つゝ減せり換言せば西洋及日本形風帆船は毎歲減して蒸氣船増加し海運業の進歩顯著なると同時に海上の危険を減せり且帝國海上、日本海陸、東京海上、日本海上の四保險會社の小樽代理店に於て取扱たる明治二十九年中の貨物保險金額は僅かに八千二百三十五圓餘なりしに明治三十年は一躍して一千五百三十九万二千七百十六圓餘となり海上保險の利用により貨主の便益増進せり

水産物

○鯡の漁獲は年により豊凶増減を免れずと雖も往古に比せば漸次減少の傾向ありとは漁業家の常に語る所にして實際一個人に對する收穫は減せしならんも北海全道を通して觀察するときは決して減少せしにあらざれど高島、小樽二郡は船舶の出入頻繁なると海中に注入する汚水等により鯡の收穫は維新前に比し減少せしか如し安政三年より元治元年の九年間平均一年の小樽郡鯡收穫高は四万〇五百五十六石餘なるも明治二十年より同二十八年の九年間一年平均二万二千八百五十二石弱にして一年平均一万七千〇〇石弱減少せし割合なり高島郡は安政、元治年間の收穫高を知るに由なきも明治二十年より同二十八年に至る九年間一年平均一万九千九百五十九石にして小樽郡に比し毎歲二千八百九十三石弱少なし然れども高島郡は夥多なる魚族に富み之れを漁獲し小樽市街に販賣するを以て水産業は豊かなり且高島村の鮭は品位佳良なるを以て名あり

○小樽高島二郡鯡收穫高及價格年別表

郡名	明治二十年	明治二十一年	明治二十二年	明治二十三年	明治二十四年	明治二十五年
----	-------	--------	--------	--------	--------	--------

郡名	石		石		石		石	
	價	價	價	價	價	價	價	
小樽郡	二、三六八	三、〇七六	二、五八三	一、四、一〇三	三、三、五二	五、一九九		
高島郡	二、六三三	三、〇七六	二、四、九六	二、六、七三	二、六、七三	三、九、八五		
高島郡	四、二、五六	一、七、四、五二	二、八、一〇三	五、七、七三	一、七、七、七三	五、九、九二		
小樽郡	一、七、九三	五、〇、〇三	二、七、六					
高島郡	三、三、四三	三、四、二七	八、〇、〇六					
高島郡	三、三、五二	一、九、九六	二、四、四四					
高島郡	三、八、九	一、五、〇二	二、六、四四					

水産物に関する會社

○祝津共同株式會社明治二十九年に生まれ漁業資本を貸與し漁業の擴張を謀り小樽集鱗株式會社、小樽生魚株式會社及宮村慶吉の生魚販賣店明治三十一年十一月より起り生魚を販賣するも小樽集鱗會社及小樽生魚會社は明治二十三年より斯業に従事せり而して此等生魚販賣者間開業以來鹽釜及青森へ毎歲鮮魚を輸出し小樽市街に賣却する卸賣金額凡五万圓内外なりと云ふ其他石狩

原野に供給する生魚は甚だ夥多なり

○高島郡祝津村に於て鈴木新兵衛が製造せし鱈の肝油製造は當時代の始め廢業し明治二十六年伊藤喜之輔高島村に於て鱈肝油製造に着手し全二十九年には高瀬國松肝油及沃度を製造し伴道一郎は祝津村に於て明治三十年より鱈肝油製造を初めしか全年限り廢業し又西川貞次郎は明治二十五年一月より高島村に於て蟹、鱈、鰯の罐詰製造を初めしか其後廢業せり其他名産として色内町に於て久慈文五郎製造の鹽數の子及鮭の筋子粕漬あり

水産試験所

○明治三十年十月北海道廳水産課は高嶋村辨天岩に水産試験所を設立し諸種の魚介を飼育し學理的研究所に充つ

水産奨励會

○札幌の北水協會は明治二十四年八月二十一日より七日間北海道水産奨励會を小樽港に開設す出品人員千六百〇九人出品數六十一種二千六百三十六点褒賞を得たるもの二百八十四人褒狀を得たるもの百十九人縦覽者凡一万六千五百人に達し開會中漁船の競争、巾着網使用、水産幻燈、演説、及水産談話等を催し實業者の爲に資益せし事尠からず

漁業規則

○海産物を獲りに採取するの弊は其種を絶滅せしむる虞なきにあらざる故に其弊を矯むため明治二十八年一月規則を設け鮑は毎年六月一日より八月三十日まで海鼠は毎年五月一日より六月十五日まで海扇は毎年四月一日より六月十五日まで北寄貝は毎年五月一日より七月三十一日まで石花菜は毎年一月一日より七月三十一日まで又鮑は曲尺三寸以上海扇は曲尺四寸以上北寄貝は曲尺三寸以上に達せざる大さのものは採拾するを禁し漁場を三區に別ち輪探の法を設け禁を犯すものは拘留又は科料に處するの規定を設けたり又潜水器を以て海鼠及鮑の捕獲は明治十九年十月禁止せしか明治二十八年十月より此禁止を犯す者は二圓以上十圓以下の罰金を科することとなりたり

漁業組合

○小樽、高島漁業組合は明治二十五年高島の二字を脱し小樽漁業組合と改稱せりされど小樽、高島二郡の漁業組合たること従前の如し

精米所

○明治廿四年に設立の精米工場五ヶ所あり即ち渡邊精米所、早川精米所、三菱精米所、共成株式會社の朝里村及奥澤村精米所とす翌廿五年には第二渡邊精米所興り明治廿九年には共成株式會社の稻穂町精米所高橋精米所生まれ渡邊精米所

其他の工場及
會社

農業

は明治卅一年一月小樽精米株式會社に譲渡し同年十一月伊藤精米所起れり
 ○酒、醬油、味噌の製造、鍛冶、瓦製造等は漸次増加し明治二十九年十二月小樽製
 氷合資會社生まれ翌三十年七月には小樽製油株式會社、白絞、種油製造を開始し
 同年星金次郎は煉化製造に着手し保護時代設立の陶器製造者は繼續斯業に従
 事す其他奥澤村の製紙場あり専ら麻紙を製造す硝子製造業は明治二十四年
 一ヶ所開業し明治三十年及同三十一年に各一ヶ所の設立あり又明治二十四年
 伊藤福三郎及明治二十六年川原田政治鍛冶工場を設立し尋て明治二十九年七月
 小樽鑄鐵合資會社及明治三十一年に小樽銅鐵船具合資會社の設立あり且鐵道
 開通時代に設立の北海道炭礦鐵道株式會社所屬の手宮工場銅鐵木等の製作に
 従事す

○小樽、高島二郡は商工業及漁業地にして農業に適する土地に乏しとは屢々記
 述せしなれどしかも農業は明治初年以來毎歲進歩し來りたるは亦事實なり明
 治二十八年漁業のため來住せし戸數小樽郡五十二戸高島郡六十八戸同二十九
 年には小樽郡十六戸高島郡三十六戸なるも明治二十八年農業のため來住せし

戸數小樽郡百二十八戸高島郡百十三戸同二十九年には小樽郡七十戸高島郡五
 十六戸の來住者あるを以て觀れば漁業のため來住せし戸數より農業のため來
 住せし戸數多數にして農業は毎歲進歩しつゝあるを知るに足る且明治五年小
 樽郡耕地段別僅かに十二町七反四畝十六歩なりしに明治二十四年には水田一
 町二反歩畑地六百二十五町一反歩に増し明治三十年には水田二十七町三反歩
 となり畑地二千二百六十三町六反歩に増加せり而して高島郡は明治五年畑地
 四反八畝十六歩同二十四年には三百九十一町六反歩同三十年には水田一町四
 反歩畑地一千〇四十七町六反歩に増加し農業は著るしく發達せりされど高島
 郡は小樽郡に比較し耕地反別半數にも満たず

○小樽高島二郡耕地反別年別表

郡名	耕地		明治二十四年		明治二十五年		明治二十六年		明治二十七年		明治二十八年		明治二十九年		明治三十年	
	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田	畑	田
小樽郡	三、五〇〇	一、一〇〇	五、八〇〇	二、五〇〇	五、四〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、九〇〇	一、五〇〇	二、三〇〇	一、七〇〇	一、八〇〇	二、一〇〇	二、三〇〇	二、五〇〇	二、七〇〇
高島郡	三、一〇〇	一、六〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	二、七〇〇	一、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇

右表によれば明治二十七年より順に墾成段別の増加を示せり开は北海道土地
 拂下規則により成墾地の程度を實地検査し未墾地は返地せしむる規定を履行
 せしより土地の被貸付人は其處分を恐れ開墾せしため斯く増加せり且同年小
 樽郡の官林を解除し普通貸付地に編入せしため亦増加せしや疑ふを要せず
 官林解除地は熊碓村字ケナシ山の西はオチナイ澤まで約二十五万三千七百
 八十六坪同村字ワラビタイに於て凡三万〇九百九十七坪及同村朝里川左岸石
 倉山の下最寄凡一万二千二百一十一坪あり朝里村に於ては朝里川及マカリ川間
 に於て三ヶ所此坪數概ね三万七千五百五十九坪及マカリ川とカムイコタンの間
 に於て凡五万四千坪あり張碓村には張碓川と禮文塚川の間凡十万七千二百五十
 坪あり又錢函村にては錢函川、星置川の間に約八万九千〇九十一坪の解除地あ
 り其總地積五十八万三千四百九十坪なり蓋し解除地積は概測なれば實測の結
 果増減あるを保し難しと雖ども之れを爲に小樽郡の漁家は副業を得其利益淺
 少なからず

田

1,20000

農業の會社

牧畜

植樹及苗圃

水田は安政年間小樽郡張碓村に於て葛山幸三郎開作せしを嚆矢とすれど暫時
 にして止み明治二十四年に至り錢函村に於て開作し高島郡は明治三十年より
 初めて着手せり奥澤村には嘗て水田を開きけるも到底蔬菜の収益に如かざる
 を以て止みたり斯く収益あるを以て同村中最も交通の便ある最上地は一段歩
 七百圓の賣買價にして其小作料は七圓なり余市郡及渡島國龜田郡は小作料の
 高きを以て名ありと雖ども到底奥澤村の七圓に及はず否他府縣に於けるも斯
 の如き賣買價及小作料は稀有の數なり

○明治二十六年四月加越能開耕株式會社相生町に起り翌二十八年五月開墾委
 托株式會社山上町に設立爾來石狩原野の開墾に従事す

○牧畜は概ね牛乳販賣を目的とするに止まり生肉販賣のため蕃殖を謀るもの
 稀なり松田直次郎の牧牛場其他二三の生乳販賣店あり又明治三十年五月資本
 一万五千圓を以て牧畜合資會社起り牛豚の蕃殖、販賣、搾乳を目的とし開業しけ
 るも翌三十一年閉社せり

○明治二十四年小樽官林に松參万八千五百株落葉松七百株明石屋七千株を移

植せり而して北海道廳は手宮裏町陸軍省用地八万六千四百坪を借り明治二十六年苗木を養成するため苗圃を設置す翌二十七年には稻穂町正法寺裏手に落葉松五千本赤松六万二千三百本を栽植し苗圃には木曾産赤松、落葉松、扁柏、松前産杉を下種せり又明治二十八年には苗圃及高島官林に落葉松、杉、扁柏、樺、栗、櫟、漆、總數拾數万株を栽植し明治二十九年には高島官林に落葉松、赤松、扁柏、杉、櫟等を補植し造林の設備稍々整へり

○明治三十年三月北海道國有未開地處分法を定め従前貸付地聖成後千坪につき一回を以て拂下けしも此規定により無償にて所有權を移し處分上不服ある場合には訴願又は行政訴訟を提起するを得貸付地の全部聖了せざる以前に於て貸付地の幾部分所有權を有するを得且貸付中の土地を擔保に供する事をも得るに至れり而して除租期は従前の如く聖成後二十九年にして地租は地價の百分の一なり又内務省は明治三十一年二月訓令第一號を發し北海道に移住する人民の凍車凍船賃の割引券取扱方を示し乗客賃及荷物の割引行はるゝに至りしかは企業上至大の便益となり移住者を促かし拓殖の進歩するは期して

土地水面及移
民に關する規
則

嶺山

輸出入

待つへし而して明治三十一年一月より小樽、高島、函館各町並に奥澤村官有地及小樽港灣内公有水面の賣拂、貸付及水面埋立使用等は公益上必要あるの外停止せり

○錢函村小字湯の澤の銀鐵朝里村朝里川奥左股の澤に於ける金銀張碓村字大澤小字湯の澤の鐵錢函村字ツッシ山の滿俺銀は明治二十七年試掘認可となりしも未だ探掘せず又朝里村朝里山の黒色硫黄は明治三十一年試掘認可となり潮見臺町に製練釜を据付け既に製練に着手せり且明治二十一年開業の北海道鑛山會社は余市郡其他の地方に鑛山を有荐しりに探掘す

○小樽港灣内幾多の帆柱林立し凍笛の反響は時々刻々耳朶を聳ふ海運業の進歩を來せしは需用供給の然らしむる所なりと雖ども小樽港か良港灣なるにより石狩原野及西海岸各地の進運に伴はれ港灣か百貨を集散せしむるにありと雖ども其進歩の顯著なるは意想の外に出づ今明治十八年より同二十三年に至る六ヶ年間平均一ヶ年の輸出品原價を算するに百萬二千八百〇七圓餘にして輸入品原價は百六十六萬二千三百八十三圓餘なり而るに明治二十四年より同

二十九年に至る六ヶ年間平均一ヶ年の輸出品原價は二百八十八万三千〇三五圓餘にして輸入品原價は六百五十五萬千九百四十六圓餘に増加せり則ち前後各六ヶ年間平均一ヶ年増加の割合は輸出に於て二倍八割七分輸入に於て三倍九割五分の進歩を現出せり且又小樽港と函館港とを對照するに明治二十三年までは輸出入ともに函館港に及ばざりしと雖ども明治廿四年より小樽港は輸入に於て函館港を凌駕し明治二十八年まで五ヶ年間平均一ヶ年間小樽港は七百十四萬七千〇十九圓なるに函館港は六百五十四萬千九百〇七圓にして函館港か小樽港に及ばざる毎歲平均六十萬五千百十二圓なり而して輸出に於ては明治二十八年函館港に超過すること三十三萬四千〇二十八圓なり明治二十九年以後の統計を得されは函館港の多寡を知る能はざるも既に明治二十八年は輸出に於ても小樽港は函館港を凌駕す蓋し小樽港の發達は意想外なりと云ひ又函館港を凌駕すと云ひしも輕言にわらす左表を對照せば瞭然たり

○小樽港管外輸出入品原價年別表

輸出入	明治十八年	全	十九年	全	二十年	全	二十一年	全	二十二年	全	二十三年

○函館港管外輸出入品原價年別表

輸出	八三、二六八	五三、六六六	五〇六、四九三	一、三五九、四七五	一、五七、九九九	一、三六六、八五					
輸入	一、三四、二五〇	七九、六六三	九八一、〇四六	一、三〇、八六〇	一、四四、〇八二	四、二八四、三六二					
輸出	明治廿四年	全	二十五年	全	二十六年	全	二十七年	全	二十八年	全	二十九年
輸出	一、九五、四四七	一、七三、七九九	三、三三、五二一	三、九一、六四四	五、四九九、四七七	一、〇七六、二九四					
輸入	六、七二、六六七	五、四六、七〇四	七、三九、一三〇	九、〇八、〇三七	七、五七、二二三	三、五七六、六三					
輸出入	明治十八年	全	十九年	全	二十年	全	二十一年	全	二十二年	全	二十三年
輸出	二、六四、七三三	二、二六、七〇四	一、九六、三三六	一、七五、九九七	二、六四、八六六	六、〇五五、六〇二					
輸入	四、四七、九八八	四、〇九、七〇六	四、二六、二九八	四、五二、四六二	五、〇五、五二八	八、四八九、六三二					
輸出入	明治二十四年	全	二十五年	全	二十六年	全	二十七年	全	二十八年	全	二十九年
輸出	四、一九四、二八八	四、七五、二五七	六、二八、五五五	六、三三、五九九	五、三五、五二九						
輸入	五、二五、七四六	四、七五、二二八	六、八四、九三二	七、七〇、一七四	八、〇三、四四五						

是等輸出入品中重要なる輸出品は、鮭、鱈、昆布、煎海鼠、鰯、石炭、木材、魚油、鱒寸の軸木、大小豆、豆の色物、亞麻種、藍、菜種、林檎、玉葱、麥酒等なり輸入品は米を第

外國貿易

一とし、繩、蕤、和洋酒、砂糖、麥、食鹽、鹽節、鷄卵、茶、煙草、吳服太物、紙類、石油、金物、漆器、陶器、磁器等あらゆる製作品は輸入を要す之れを要するに北海道は素品産出時代にして工藝品製作の時機に到達せされは工藝品の輸入多く且其種類も夥多なり

○明治二十二年特別輸出港となり米、麥、麥粉、石炭、硫黃の五種を海外へ輸出するを得るに至りしも麥は他縣より輸入を要し硫黃は未だ輸出するに至らずされど上川郡及朝里村の朝里山硫黃多量に採掘の曉は之れを輸出するに至らん麥粉は明治二十八年より少許を輸出し石炭は明治二十三年より同二十六年まで輸出の全額を占むるに明治二十四年十月二十一日より昆布、木材及板は大藏大臣の許可を経は不開港場より外國通航の内國船に積載し輸出するの特許あり又明治二十七年八月一日露領西比利亞沿岸、薩哈連島及朝鮮貿易のため小樽港に於て帝國臣民所有の船舶出入及貨物積卸するを得るに至り是より總ての貨物は露國及朝鮮へ輸出し得らる且明治三十一年七月特別輸出港より米、麥、麥粉、石炭、硫黃五品の外更に木炭、セメント、硫酸、滿俺、晒粉の五種を増加し輸出

するを得薩哈連島より輸入の鹹魚輸入税は明治三十一年の議會にて全廢を可決したれば益々輸入を増加するや必せり斯く小樽港は猶不開港場なりと雖も外國貿易の途開けあり且運輸の便は明治二十九年十月一日より大家七平政府より年金貳萬貳千八百圓(明治三十一年六月より四萬五千圓に増額)の補助を受け瀛船愛國丸を以て毎年四月より十一月まで八ヶ月間毎月一回函館より小樽に寄港し薩哈連島哥爾薩港モサコフに至り同地より小樽に寄港し函館に歸着し新瀉に回航し同地より毎月一回浦搦斯德モサコフに至り新瀉に歸港し函館に至るを以て小樽港より薩哈連島及浦鹽斯德へ輸出入ともに運輸の便あり又岡田八十次の船舶薩哈連島へ時々回航す

○日露間大家七平瀛船乘客運賃表

浦上	一七、〇〇	二五、〇〇	三〇、〇〇	四〇、〇〇
全往復	三〇、五〇	四五、〇〇	五四、〇〇	七二、〇〇
德並	七、〇〇	一〇、〇〇	一二、〇〇	一六、〇〇
新上	一〇、五〇	一二、五〇	一二、五〇	一二、五〇

○日露間大家七平瀛船貨物運賃標準表

品名	函館		小樽		哥爾薩
	全往復	上	全往復	上	
品種數量	一九〇〇	三、五〇	二二、五〇	五、〇〇	四〇、五〇
米穀壹石	九、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	九、〇〇	九、〇〇
鹽壹壹	二、〇〇	一五、〇〇	一〇、〇〇	二七、〇〇	六、〇〇
大阪酒壹丁	一八、〇〇	一〇、〇〇	一八、〇〇	一〇、〇〇	四、〇〇
小樽、浦羅斯、哥爾薩間運賃					四、〇〇

○外國貿易輸出入品元價年別表

輸出入	明治二十三年	全二十四年	全二十五年	全二十六年	全二十七年	全二十八年	全二十九年
元價取品物 百圓付				一、九三		七〇、〇〇	八一
綾 箱 百石							

明治二十二年特別輸出港となり翌二十三年より二十七年までは石炭のみの輸出にして輸入なかりしか明治二十七年露國及朝鮮へ貨物積卸するを得るに至り貨物を輸出するは勿論輸入するを得て貿易の金額は頗る増加せり蓋し明治二十七年輸出せし貨物は石炭、酒、食鹽、石油、空錫の五品に止まりしか翌廿八年には米穀、蔬菜、味噌、醬油、筵其外五十八種を輸出し爾後益々輸出入ともに増額せり左表を見れば瞭然たりされど小樽港は斯の如き狭少なる範圍の貿易を以て満足すへきの地位ならず百尺竿頭進んで開港場となすの準備を整へ西比利亞鐵道開通に先ち對露商策を講し支那朝鮮は勿論廣く世界の商戰場裡に勝を占むるの覺悟なかるへからず是れ冗長を厭はず大家七平の運賃表を掲げて参照の資に供する所以なり

輸出	一九、八〇三、五〇	四、五九六、〇〇	三、五九六、五〇	六〇、四八、六〇	一九六六、二五	三二、八九〇、二二	一九七、四五、〇二
輸入	一	一	一	一	六〇九、四八	七、九七、五四	一〇九、二六、四三
輸出	明治三十年	全三十二年					
輸入	三三、二九、四三	二五四、八四〇、六三					
輸出	三三、五五、六六	一四、九六、六六					

倉庫回漕店其他

○貨物集散の増加につれ倉庫も亦増設せられたり明治二十四年倉庫の棟數六十三にして其坪數參千七百六十四坪なりしに明治三十年には百貳拾參棟其坪數八千二百六十八坪に増加し明治二十八年十二月小樽倉庫株式會社は資本五万円を以て南濱町に開業せり回漕店は明治二十四年に同業者六名なりしか明治三十一年には十三名に増加し貨物運搬合資會社は明治三十年より開店し解同業者は現今六名あり其内中字解合資會社は明治三十一年二月に起りたり而して陸上の貨物は明治三十年貨物火災保險株式會社生まれ保險を附し海上貨物の保險と共に荷主の損害を防ぐの途備りたり

○明治十二年已來開業の三井銀行、第二十銀行、田中銀行及北海銀行の各支店は

金融機關

現今存續し發達時代に至り設立に係るは明治二十六年第百十三銀行小樽支店翌二十七年屯田銀行小樽支店明治二十八年小樽貯蓄銀行、余市銀行小樽支店同二十九年日本商業銀行小樽支店及貯蓄銀行小樽代理店の六銀行起り日本銀行支金庫は明治二十九年日本銀行派出所を設置し支金庫業務の外手形の再割引及一班の爲替等を取扱ひ明治三十年十一月一日より派出所を出張所と改稱し各銀行の手形再割引を開始しければ金融上至大の便宜を増進せり其他貸金業を營む目的を以て生まれし合資會社は明治二十八年北海道同救會社明治同盟會社帝國共愛會社の三會社起りしも一兩年にして閉鎖せり而して會社組織にあらざるものは信用抵當貸借にして高利貸金業者も亦尠ならず又無盡は現今専ら流行し其數百以上あらんと云ふ而して小樽市街には銀行及郵便局に於て貯金を取扱ふに團體組織の貯金法なきも小樽高島二郡各村の内錢函村には數種の団体貯金法あるは甚だ嘉みすへき異例なり荷爲替は往時より行はれ手形は發達時代より初まりしも其利用の發達せしは明治二十八年以後にして殊に明治三十年十一月より日本銀行出張所各銀行の割引手形に再び割引するに至

諸會社

りしかは金融上頗る利便を増したり
 因に記す余市銀行は明治三十年十二月より小樽を本店とし小樽銀行と改稱
 し屯田銀行は同三十一年一月より小樽を本店とせり
 ○明治二十五年共同商會支店起り二十八年株式組織となり明治二十七年一月
 十一日設立許可の米穀外五品取引所は同年五月一日より營業を開始しけるも
 爾來振はず再度休業の姿となりしも明治三十一年十一月仲買人の増員と共に
 立會を始めたり明治二十八年には北海道新炭合資會社起り薪炭を販賣し翌二
 十九年九月北海道共同株式會社小樽支店再び營業を始め米穀等の委託販賣に
 従事し祝津共同株式會社は高島郡祝津村に於て同年十月より海産物販賣及漁
 業資本貸與の業を營み明治三十年には共益合資會社繩延及海陸産物を委託販
 賣し同年五月北辰合資會社は地所建物船舶買入金錢貸借諸物品賣買の周旋業
 を始め又同年月より小樽合資新聞會社起り新聞雜誌の發賣を兼ね印刷業をな
 し同年八月より森重農産合資會社農産物を委託販賣し高橋合名會社は同年十
 一月より米穀海産物、荒物買買及委託販賣、白米製造、味噌、醬油醸造を始め明治

商會會議所

三十一年三月より北海道周旋合資會社は海陸産物、地所、建物及船舶買買の周
 旋業に従事し雇人周旋合資會社は雇人口人、雇人逃走保險の業を同年月より
 始めたり又同年一月より小樽精米株式會社は海陸産物買買を兼ね精米業を獲
 きに開業の共成株式會社と共に同一業者として開業し同年四月北海生命保險
 株式會社は漁業者の終身保命、及養壽の生命保險及女子結婚男子修業、養老、延
 命の生存保險業を開始せり其他日本郵便會社及北海道炭礦鐵道會社各出張所
 あり而して斯波合名商會、三井物産小樽出張所は明治二十八年以後廢業せり
 此等諸會社及各項目中に記載せし會社の總數は四十二社にして内八社は發達
 時代以前即ち明治二十四年以前の設立なれば此時代に創立せし會社は三十四
 會社なりされと又八會社閉業しければ明治三十一年末現在の會社數は三十四
 社なり而して創立の最も多數なりし年は明治三十年にして一ヶ年間に十會社
 生まれたり
 ○明治二十八年十二月商業會議所設置の許可を得爾來各種の調査を遂げ小樽
 商業會議所月報を明治三十年一月より刊行し公益上資益を與ふる尠からずと

雖ども猶隔靴搔痒の感なきにわらず協同談話會は鐵道開通時代より繼續して商業、經濟を窺究し明治三十一年三月より小樽交友會生まれ出て公共問題の研究、智識交換及親睦を厚ふするの目的を有す斯く小樽市民か公共上の利益を増進せんか爲に一致結合するに至りしは自治政を布くの基礎となり其分子を包含す

明治二十四年の市況

○發達時代の初年則ち明治二十四年は小樽高島二郡ともに前年に比し鯡の収獲多く零んと二倍以上の漁獲あり唯前年六月百石の鮫相場六百三十五圓なりしに明治二十四年は五百六十圓に下落し百石に付八十圓の差ありされど二倍以上の増収なれば漁業家に損害なく隨て市況も沈靜ならず而して本年は三月十八日より三日間札幌小樽間に於て屯田兵大演習あり八月には水産獎勵會ありて各地より來集せし旅客少からず且農産物は石狩原野より輸送し來り日本郵便會社は函館神戸間の運賃を抵減し輸入品元價の金高は本年より初めて函館に超過し市街の景況は活氣を帯ひ諸種の事業起りしか

明治二十五年の市況

○翌二十五年小樽高島二郡は未曾有の不漁にして僅かに壹万三千百八十石を

明治二十六年の市況

漁せしのみ又單に二郡に止まらず後志國及石狩國も歉漁なりければ漁業家は甚だ困弊せりされど百石の相場六月六百九十五圓七月七百三十圓に賣れ行き前年に比すれば高直なりしも薄漁の損失は高直なる相場の故を以て償ふに足らず其餘波延ひて市況振はさりしも秋期より農産物の出廻り及土木工事ありしため甚しき衰頹を來さす之れを要するに往時の如く水産物のみの小樽港ならずして各地に供給する百貨及農産物の増加に伴ひ經濟社會に及ぼす變動往時の水産物のみの時代の如く劇烈ならされはなり

○明治二十六年は鯡鮫相場六月六百八十四圓七月七百圓にして前年より廉價なりと雖ども纒かに二三十圓の下落なり且客年の如く不漁ならざるも前年の疲弊は本年に影響を及ぼし兎角市況萎靡振はざる状態なりしが秋期に至り稍々活氣を帯ひたるか如し

明治二十七年の市況

○明治二十七年小樽高島二郡の鯡漁は例年に比すれば豊漁且價格も六七二ヶ月相場七百圓より七百三十五圓の間にありて漁業家は前二ヶ年の損失を償ふに足る有様なりしかと六月朝鮮事件に次ぎ日清戦争となり俄然郵船會社の船

船は引揚となり定期船は停航し加之該社以外の汽船も數艘を減し鮮絞粕輸出の途杜絶し貨物は倉庫内に推留し運賃は上騰せり之れに反し粕の相場は低落し加ふるに金融逼迫のため買収成立せず爲に漁業家は一割方の損失を被り他方には米其他の貨物を輸入する能はされは勢ひ物價は騰貴せり且明治二十六年より貸付地成功程度を實地調査し規定の程度に達せざる未墾地は返地の處分を厲行せしにより石狩原野の開墾は俄かに増加し例年小樽に入る七万石内外の農産物は本年に至り大約二拾万石に達したるも是亦輸出の途なきため五分方の下落を來したりされと郵船會社雇入れ外國船の數を増すに隨ひ漸く航路の壅塞を開きたり必竟するに水陸産物は多量に収獲せしも一時運輸の便を欠きしにより斯の如き市況を呈せしも運輸の便開け水陸産物の賣買成立し金融の運轉圓滑に赴き取引所及二三會社の設立手宮大火の再築工事等ありて市況は再び活氣を現はし年を越せり

明治二十八年の市況

○明治二十八年小樽高嶋の鮮漁況は前年に比し收穫少なく且價格も多少廉價なりしかど西海岸一帯は平年の漁獲ありしを以て甚しく市況に影響を與へず

明治二十九年の市況

之れを要するに小樽市街に居住し各地に漁場を有する漁業家は漁業を終へ小樽に歸住するを以て漁業より生ぜし利益及青田の賣買其他の漁業資本は小樽より出て小樽に復歸するの關係あるを以てなり且秋期より農産物出廻り市況敢て沈靜なりしと云ふへからず却て好況を呈せしは商業會議所、小樽貯蓄銀行、小樽銀行、倉庫株式會社、開墾委託株式會社、薪炭合資會社、明治同盟合資會社北海道同救合資會社、電燈會等の設立を見て知るに足らんされど日清戦争の結果物價騰貴の一方に偏し頗る金融逼迫の狀況を以て明治二十九年に移れり

○明治二十九年は客歲より引續き物價上騰し四月に入り住江町の大火あり商況愈々振はさりしか鮮絞粕出廻の期節となり其相場は六月百石に付九百圓七月千百圓を唱へ未曾有の高直なりしを以て漁家は潤澤を得隨て商機活動金融圓滑となり近年稀れなる賑ひを現せし際市街飲料水道の測量、新廓移轉地及將來小樽市街の擴張等の豫想に驅られ土地の賣買盛んに行はれ市民は之れか爲に狂奔し其餘熱は張碓村及余市郡大川町までの土地賣買價を暴騰せしめ無産の徒にして俄かに資産を得資産を有する者は損失を蒙り利益を得たるは割合

に少なかりけり其結果として小樽區裁判所登記件數三千八百二十二件此登記料六万二千三百三十三圓七十二錢に及びしか九月中旬に至り其反動として土地の價直暴落を來たし銀行は取引上に警戒を加へ振出手形は信用を失し市況復恭縮せしと雖ども旅客貨物の出入前年に比し二割強を増し火災後の建築工事起り諸種の會社設立、築港工事及農産物の出廻りありて平年に比較すれば市況頗る繁盛を極めて年を迎へり

明治三十年の市況

○各府縣に於て事業勃興の結果輸入は輸出に超過し隨て正貨は海外に驅逐せられ物價は益々昂騰し入浴錢より豆腐の代に至るまで暴騰し資金の需用頻繁を告げ殊に他府縣一斑に金融逼迫し大坂地方に於て二三銀行の仕拂停止等より經濟界頗る不穩の狀を呈し各銀行は警戒を嚴にしたるため金融梗塞し剩へ金貨本位實施の期を眼前に控へし時なれば百事見送りの姿なりし故に緋絞粕の價格日に低落せしか九月に至り米作豐稔との豫報により一時氣配を持直せしか十月に入り各地不作の確報あり殊に北陸兩羽の米作は水虫の被害最も甚しく俄然價格昂騰底止する所を知らずされと諸物價の騰貴につれ緋絞粕及雜穀

明治三十一年の市況

の價も高直となり商況稍々回復の色を顯はせしも資金の需用は増加し金融益々繁忙を來たし其成行に放任せば一恐慌を惹起するならんと豫想せしに日本銀行出張所は各銀行の手形を割引するに至りしかは悲惨の狀態を現はさすして年を終へり

教育

○物價騰貴の趨勢は止まず隨て商買は仕入品を扣へ目にし勞働者は雇者の乏しきに苦み不景氣の歎聲は各地に喧しかりしのみならず本年は鮭漁非常の歉漁なりしに加へ七八月頃は一時白米一石二十圓五十錢まで昂騰し隨て緋肥料も白石に付千五百圓を唱へしかと薄漁の損失を償ふに足らず商勢活氣を失せしか他府縣の米作豐熟の確報と共に頗る下落し十月下旬には並白米一石十二圓臺まで落込み十一月に至り十圓臺となりしも本年は明治初年以來未曾有の水災に罹り石狩原野の雜穀出廻減少し青田賣買の如きも手合なき狀況なりければ市況沈靜の姿を以て明治三十二年の春を迎へり

○私立小學校は明治廿五年高島小學校翌二十六年に花園小學校明治二十七年には色内小學校及高田小學校の五校設立あり公立小學校は明治二十七年に設

立せし稻穂小學校及同三十一年に設立の手宮小學校分校の二公立小學校にして稻穂小學校及量徳小學校は在來の男女生徒を分離し明治三十一年女生徒の校堂を新築し男女を別ち教授するに至れり又明治二十五年十二月私立有隣學校生まれ和漢英數簿記を教授し明治二十七年七月私立北海道水産學校の設立ありて水産學を教授し翌二十八年六月には私立小樽商業學校及佛教女學校の新設あり明治二十九年六月には耶蘇教徒教授の靜修女學校起り修身讀書習字算術英語裁縫を教授し翌三十年九月より同校内に幼稚園を増設せり而して英語教授者は現今七ヶ所あり

○北海生命保險會社は修業生存保險をなすにより修學者の爲に貯蓄をなすの便あり協同談話會は教育上の事をも研究し明治二十六年八月より小樽教育會の設立あり又明治三十一年より小樽商業會議所内に於て商法講義會を開催する等教育の設備稍々整ひたるが如しと雖とも花園小學校、水産學校、商業學校、佛教女學校は爾來廢校せり畢竟するに其基礎鞏固ならざるに坐すとはいへ小樽市民か學術を冷淡視するの責なしと云ひ難し書籍店に就き販賣書籍の種類及冊

新聞雜誌

數を聞くに小説最も多數を占め學藝に關する書籍の販賣高は頗る少數なりと云ふ函館は明治九年商船學校の設立あり市民の熱心を以て現時の隆盛なる學校となりたり小樽に今一の商業學校なきは慨歎の外なし尋常中學校は前支廳長高岡直吉建議する所ありければ早晚設立を見るに至らん之れを要するに學術は進歩の財源學術なきの繁榮は一時の虚空にして世界の大勢は學術を利用し連れさらんことを競ふの時代たるを記憶せざるへからず

前記記載の公私立學校の外發達時代以前に設立せし二郡各村の公立小學校は祝津村、高島村、熊碓村、朝里村、張碓村、錢函村に各一校現在するも其他私立に係るもの一校たになし

○金子元三郎社長となり明治二十四年四月二十一日日刊北門新報を發行せしか明治二十六年札幌に移轉せり同年北辰日報生まれ出ても數ヶ月間にして廢刊し翌二十七年六月札幌の北海民燈小樽に移轉し小樽新聞と改題し現今唯一の日刊新聞なり此年又新北門の發行ありしか全年廢刊せり小樽商業新報は明治二十七年四月より發行し明治三十年一月より小樽商業會議所は月報第一

佛教

號を刊行し佛教の機關としては明治二十八年報恩之友なる雜誌を發行せしり
明治三十年より中絶し之に代はり翌三十一年十一月より毎週一回北海教報を
發刊す

○發達時代に建立の佛寺は三ヶ寺あり左表の如し其他は既記の如く小樽高島
二郡各町村に十六ヶ寺の建立ありしを以て右三ヶ寺を合せ總數十九ヶ寺内十
三ヶ寺は小樽市街に現在の總數なり

園遊會は毎月集會し明治三十一年十二月より佛教講究會の設立あり雜誌は北
海教報を印刷し孜孜佛教の擴張を怠らざるか如し而して淨應寺は明治三十年
に共贊會を設立せり量徳寺も亦同年信理會を設け明治三十一年には直行寺共
濟會を設立せり各會會員六百名を定員とし會員を入れ死者われは五十圓を交
附するにへあり

○寺院表

所在郡名	所在町村名	建立年月	寺院名	宗派	要領
山田町	山田町	明治二十四年	日光院	眞言宗	

基督教

小樽 那 稻穂町

全三十一年 淺草觀音堂 天台宗
與澤村 全三十一年 専名寺 眞宗三開派

出水

○鐵道開通時代に美以教會の設立ありしか明治二十五年二月日本基督教會の
設立あり同三十年十二月會堂新築落成し現今信者凡四十名聖公會は明治二十
九年設立し明治三十一年會堂を新築し組合教會は卅一年に設け四宗派共に現存す
○明治二十五年九月五日勝納川出水し與澤村共成株式會社の精米所損害を蒙
る數百圓に及へり同日朝里村朝里川出水し同會社の精米所に於て米八百三十
俵浸水し又は流失し家屋一戸魚油數十ダースを流失し半は家屋の破壊十五戸
あり朝里川鐵道の架橋も流失し溺死せし婦人二名あり蓋し共成株式會社は朝
里川出水のため數千圓の損失をなせしと云ふ其後堤防修築成り爾來斯の如き
慘害なきに至れり明治二十七年秋に錢函川出水二戸の家屋流失せり其前日は
火災の爲七十戸焼失し二日間に水火の災ありけり明治三十一年は北海道各地
未曾有の水害を被り其慘狀筆紙に盡し難き悲惨を極めしは今猶世人の記憶に
存するならんも小樽市街は幸に其害を免れしか錢函村に於ては家屋橋梁の流

火災

失又は破損し浸水其他の損害ありけり
 ○明治二十七年五月三日手宮町及手宮裏町出火六百餘戸焼失せしも家屋の多数は資産家の貸家なれば資産家の損害は大なりしと雖とも細民は救助金凡二圓を出願者に給與し尋て再築工事の起りしとにより細民の困難は一時に過ぎさりけり明治二十九年四月二十七日には住江町四丁目より火を失し同町一丁目より四丁目を灰燼に歸し延焼して住初町、曙町、量徳町、永井町、山上町、有幌町に及び殆んど八百戸を宇有に歸し明治十四年の大火に次く大火なりけり其他毎歳數十戸の火災ありしも逐一記載せず

劇場

○劇場は明治二十四年山上町住吉座の建設あり翌二十五年には手宮座手宮裏町に全二十六年には稻穂町に稻穂座の建設ありたり

小樽市街

○慶長年間福山人八木勘右衛門小樽に來つて緋の漁業を營めりとの文献は本邦人か小樽に來りし最古ならん爾來三百年を経て現今の小樽市街に變遷せし梗概を讀者に紹介し其如何にして小樽港か進歩發達せしやを叙記したりされど唯氣運の向ふ趨勢を摘載せしに止まれは樞要なる市街の現況を記し小樽の

南北濱町

地を踏まざる人の参考に供せんとす

明治元年小樽の現住戸數四百四十四戸なりしに明治三十年末に至り一万千六百〇二戸に増加せり則ち二十六倍一分三厘餘の増加なり其進度の迅速なりしは一驚を喚ぶるの外なし而して明治初年の頃は市街の東方繁華なりしか戸口の増殖と明治十四年大火災及鐵道の開通により西方漸次繁盛となり高島郡色内町、稻穂町、手宮町、手宮裏町は此當時より次第に發達せり今汽船に乗せし人小樽港に着せしならば北濱町の波止場に上陸し同町及南濱町を徘徊せば倉庫、回漕店の櫛比するを認むるならん且函館税關支署水上警察署、貯蓄銀行、小樽倉庫會社、大家七平支店、共益合資會社、及高橋合名會社を見るならん次に高島小樽二郡界のオコバチ川に沿ひ色内町に出つれば荒物、呉服、太物の販賣店及旅店多く越中屋、谷旅店に宿泊し旅行の疲勞を癒すを得ん其他は小間物、金物、藥種等の雜貨店及回漕店櫛比し道路の中央は車馬往來し兩側は人道にして市街中樞要の地位を占む會社は小樽合資新聞會社、北海銀行、屯田銀行、三井銀行支店、日本商業銀行支店、小樽銀行、小樽銅鐵會社、小樽生魚會社、小樽集鱗會社、中宇解會社、日本銀行

色内町

手宮町

出張所あり又二等郵便電信局、愛生病院、北門新報支社、小樽共商館も亦色内町にあり手宮町はシユマサンの山嘴を以て色内町と界し入道車馬道は色内橋より絶ゆ手宮町は荒物、古道具の販賣店多く亦所々に雜貨点在し日本郵船會社の出張所、北海道炭礦鐵道會社事務所及同社の手宮工場あり又手宮停車場あり是れ鐵道線路の西方に於ける終端あり而して手宮尋常小學校も亦同町にあり手宮町には共商館あるも客年より閉鎖し各所に荒物其他の雜貨店あれと甚た少數なり其他は炭礦鐵道會社及郵船會社の諸職人労働者居住し炭礦鐵道會社の社宅も尠からず亦料理店点在せり寺院は淨應寺にして客棧新築の手宮尋常小學校の分校及劇場手宮座あり

手宮某町

稻穂町

稻穂町は其區域甚た廣く地番號も區々なれば市街區畫の改正を要するは論を俟たず商店は少なく多くは居宅地にして労働者も多く居住すされと第一火防線路附近には小樽區裁判所及電話交換所あり米穀外五品取引所辨護士、公証役場、基督教會、公立稻穂尋常高等小學校、靜修女學校、小樽精米株式會社点在し山手方面には植木屋、直行寺、淺草觀音堂、遊馬場(明治二十九年設置)あり第二火防線路

堺町港町

附近には共成株式會社の精米所及正法寺山手にあり第三火防線最寄には小樽鐵合資會社、電燈社、貨物運搬合資會社、北海道周旋合資會社等各所に散在し三谷病院龍宮神社明治三十年創建、劇場稻穂座あり其附近料理店あり山手には無量壽寺山腹に聳へ全町字寺町には高瀬汗油製造所、珠玖罐詰製造所、伊藤精米所、手宮尋常小學校及羽黒山村上講社(明治十九年創建)ありオコバチ川沿岸を下れば兩岸料理店櫛比し十字街に至れば右岸は堺町にして左岸は色内町なり蓋しオコバチ川は小樽高島二郡の境界なり堺町を進めば港町に入り入船川に達す而して堺町港町は市街の要衝にして荒物店委託販賣店多く其他各種の商店尠からず第二十銀行支店、第百十三銀行支店、小樽火災保險會社、共同會社支店、田中銀行支店、北海道鐵山會社、貯蓄銀行代理店、小樽新聞社、商業會議所あり入船川を右折すれば西岸入船町なり

入船町

入船町は割合に小間物店多く其他の雜貨商あり鐵道線路附近は住吉停車場に接近し劇場寄席に近き爲めか料理店多く一二三樓有名なり會社は魚油會社、北海道生命保險會社及雇人周旋保險會社あり此町亦市街の要衝なり寺院は量徳

相生町山田町花園町

寺、天上寺の二ヶ寺及墓地火葬場あり

入船川の左岸丘陵は相生町山田町花園町の三ヶ町にして相生町花園町は居宅地なりされど相生町には加越能開墾株式會社、北海道毎日新聞支社、赤城病院あり花園町には原田病院及劇場住吉座あり山手方面には植木屋及公園地にして眺望絶佳風致に富む勝地たり山田町は古道具商を以て占領す

有幌町山上町

入船川の西方海岸有幌町は材木商多く山上町には開墾委託會社福原病院劇場末廣座組合基督教會講義所及眺望に富み且佳肴を以て名ある魁洋亭あり

永井町量徳町

永井町には呉服店骨董店等多く森重農産合資會社、小樽薪炭合資會社あり量徳町には小樽支廳、警察署、量徳尋常高等小學校、小樽漁業組合事務所及筆耕者多し

住江町

住江町には住吉神社あり同町一丁目より五丁目は料理店藝妓貸座敷を以て占領すされど明治二十九年五月大火後入船町奥を貸座敷免許地とし明治三十年十二月三十一日限り移轉すへきを同三十三年六月三十日まで延期しおれば早晩移轉するならん

勝納町若竹町

勝納町若竹町は漁業家の占領地にして有幌町以東の海岸にあり勝納川沿岸地

にも多少雜貨店ありと雖ども往時に比せは衰微し居宅地及び勞働者の住地、水車精米所割合に多し其他各町の状況は冗長に渉るを以て省略す蓋し現今の小樽市街は三十六ヶ町十七ヶ丁目なり

土地の評價格は市街の盛衰を窺知するの便われは明治三十年の地價評價を左に表示す蓋し明治二十九年は土地賣買熱のため頗る暴騰し翌三十年は其反動として下落し明治三十一年は前年に比し猶下落したるも同年は經濟界萎靡せし時なれば姑らく其中間なる明治三十年の評價を掲記せり

○明治三十年小樽各町地價評價

町名	一坪ノ地價	町名	一坪ノ地價	町名	一坪ノ地價	町名	一坪ノ地價		
花園町	一〇、〇	南濱町	八〇、〇	山上町	一八、〇	若竹町	三〇、〇		
相生町	一五、〇	北濱町	四〇、〇	有幌町	一八、〇	勝納町	四、〇		
山田町	二二、〇	手宮町	三五、〇	量徳町	七、〇	湖見臺町	二、〇		
港町	四五、〇	手宮裏町	一八、〇	住江町	一〇、〇	新宮町	二、五		
堺町	四〇、〇	芝居町	四、〇	曙町	五、〇	眞榮町	一、二		
							土場町	一三、〇	
								高砂町	三、〇
								金邊町	四、〇

府縣別職業

砂崎町	四〇、〇	若松町	七、〇	住初町	二二、〇	川原町	一、〇
色内町	五〇、〇	龍徳町	六、〇	永井町	二〇、〇	信香町	八、〇
稻穂町	一八、〇	開運町	二二、〇	入船町	三〇、〇	信香裏町	六、〇

又市内に於て各職業に従事するものを府縣別すれば米穀荒物海産物商買は新潟石川兩縣人吳服太物商は滋賀新潟兩縣人鐵物は山梨縣人陶器類は富山縣人魚商は新潟縣人野菜商は福井縣人大工は新潟、石川、秋田三縣人桶職は秋田新潟山形青森四縣人家根職は秋田石川兩縣人染職は新潟縣人仕立職及靴職は東京府人勞働者は秋田岩手青森石川四縣人農業は福井縣人を主とす而して小樽に於て有爲の地位を占むるは概して新潟石川兩縣人を推さざるを得ず

君主の獨裁

○自治の基礎及其進歩

○封建時代に於て君主は無限の權理を有し一片の命令も法律的權能となり臣下は事の是非曲直を問はず唯々諾々是れ命に服従するの一事あるのみ北海道に於ける封建時代殊に安政二年以前松前藩主か蝦夷を統馭せし方法も亦同一なりと雖とも他藩と異なり高島、小樽は奥蝦夷と唱へられ治外の夷域に埋没せられ唯諸賈人の屈使せし支配人半官半民の勢力を以て土地人民を支配し恰も藩主の代表者たる如き觀ありけり安政二年より移民漸く定住し支配人の威勢は多少制限せられ且浪名主、百姓代を置き慶應元年より小樽は特に請負人を廢し名主年寄を置きたれば民人の利害得失を陳辨するの端緒を得たりと雖ども封建政度は依然として封建政度なり唯支配人の專斷を制裁せしに過ぎずして民人の權理義務てう要義は君主に對する臣下の忠義なる理想に仰歷せられて自由愛國なる感念は發揮する能はざりしなり

○されど徳川幕府衰亡し公議輿論の主義發生し明治四年七月各藩を廢し縣を置き古への階級政度は打破せられ各自平等なる權理を有すると同時に君臣の

全國自由の進歩

關係は止みたり明治七年に至り後藤象次郎板垣退助等民撰議員選出の議を建白し明治十一年より國會開設の請願となり翌十二年には府縣會及町村會の開設を見るに至れり當時佛國革命史民約論を學びし民權論者は明治十四年北海道官有物拂下の非なるを痛論し且國會開設を請願して止まざりしか明治十四年十月に明治二十三年を期し國會開設の詔勅降り明治二十二年四月には市町村制度實施となり翌二十三年は帝國議會を開會し各府縣の自由政度は大成するに至れり

○翻て小樽港の狀勢を觀察するに明治三年大年寄中年寄及町代を置き町村事務に干預せしめたるも明治五年之れを廢し戸長副戸長を置き純全たる官吏とし尋て町村總代人を選出するに至れりされど被撰者撰者の資格を定め金穀公債、共有物、土木起工等の事項を議定するの規則は明治十一年に成り行政官廳の施政に參與するの端緒を開きしも一斑の利害得失に關する事項は干預する能はず極めて薄弱なる權理を有して町村を代表し現今に至るも未だ變更せず明治二年開拓使設置の當時は恰も幼弱なる兒童か父母の教導撫育を要する

保護時代に於ける自治の端緒

と均しく到底獨立自營の技量を有せされは特別の規定を設け百事保護政策を採り町村の發達を促せし結果明治十二三年より自營の端緒を啓開するの時運に到達しけり

○斯く明治十二三年より自營の端緒を開き且各地物價昂騰し實業者は暴利を得て世運旺盛を極めし時なれば明治十三年地方税を徴し町村費に充つる事となり明治十五年二月開拓使を廢し縣政を布き従前徴収せざりし諸種の租税を納入せしめ同業組合規則質屋、古物商、海員、蓄犬、藝娼妓、車馬、印紙、租税検査、消防夫、町村の掃除、港内取締等に對する取締規則を制定し官立の學校及病院を廢して町村立とし國道縣道渡船の新造及修繕どもに地方費を以て支辨すへきを規定したる趨勢にして保護の大部を脱却せり加ふるに同業者組合の組織漸次發達し同心協力同業の利益を増進し明治十六年より興商會、協同談話會、及農商工會を設立し町村全斑の利益を増進するの團體顯はれたり殊に農商工會は小樽札幌の有志者を以て組織せり蓋し是等の團體は代議政体に於ける各政黨と同一視し難きも自治の根底を鞏固にするの要素たるや明なり而るに明治十五年より

鐵道開通時代は獨立自營の基礎を固めたり

明治二十年に至る間は紙幣減縮の結果物價下落し破産するもの多く貧民は市街を徘徊して食を乞ふか如き恐慌時代に遭遇し加ふるに縣政の守成を以てしければ將に發達せんとする獨立自營の建設を阻礙せしめ拓地殖民の業は更に進歩せされは明治十九年一月縣政を廢し北海道廳を新設し官衙の經費を減し鐵道其他の官設事業を民業に移し拓地殖民を獎勵したると明治十九年以來物價は平準に復し水産税の輕減出港税の全廢により縣政時代の衰頹を回復し再び獨立自營の基礎を築き鐵道開通時代の末期則ち明治二十三年を終へ明治二十四年の發達時代に到達せり

○明治二十二年市町村制度の發布あり翌二十三年には帝國議會の開設となり府縣の人民は鼓腹し自由の進歩を祝せりと雖とも北海道の人民は度外視せられ共に祝ふの機を得さりけりされは小樽港は勿論其他樞要の町村は既に自治の基礎を固めし時運に到達したれば明治二十四年二月札幌間の有志者發起し全道より上京委員を選定し左の四ヶ條を帝國議會に請願せり

一、北海道議會を設置する事

一、帝國議會に貴衆兩院議員を選出する事

一、自治政を施行する事

一、事業費を増加し拓地殖民を擴張する事

されど議會は道民の希望を入れず爾來道民は其希望を達せんため上京運動し加藤政之助等は屢々北海道議會法案及北海道議員選出法案を提出しけるも議會を通過せず明治三十年五月には北海道區町村制の發布ありしも同年九月其實施は延期となり明治二十四年來九ヶ年間一日の如く待ち設けし希望未だ通達せず道民も亦不幸なりと云さるへからず蓋し議會を通過せざる反對の理由は各府縣と同一なる納税の義務を負担せずして參政の權理を得んと欲するは不當なるのみならず國庫より支辨する金額巨額を占め未だ保護を加へざれば獨立する能はざる幼稚の民なりと是れ一理あるか如しと雖ども深く考察せし議論にわらず今假りに鹿兒島より北海道に移住する一家ありとせよ祖先墳墓の故郷を離れ海陸旅行費、農具、種子、家具、汁器、耕馬、運搬器等の購入費及家屋建築費を辨する固定の性質を帯ひたる資本及衣食費藥價等を要し剩へ山間不毛の

荒野に入り群蚊の襲來を忍び樹木を伐採し排水を通し開墾に着手し依て得たる秋期の収獲は翌年の生計費及開墾費を償ふ能はざる類例少しとせす斯のごとく毎歳怠たらず漸く十ヶ年の後貸付地の所有權を得て一家經營の基礎をかたむるに過ぎずして各府縣の人民が租先傳來の土地を有し租税を納むるものと同一視すへからず故に政府は道路を通し地租其他の租税を減免するは將に爲すへき義務にして現今の保護は將來政府の財源を増加する資本なり是れ新開殖民地の狀況なり而して小樽、札幌、函館等の如く發達せし市街も亦新開の當初は殖民地に於ける移民と同一の勞力及資本を投して現今の發達を來たしたるに外ならずして政府が豫め約せし租税の輕減又は全廢は新開當初の勞力資本、辛苦に報する恩典にして斯くの如くならずは國家の責務なり然るに小樽港其他の町村は既に獨立自治の基礎固定し參政の技能を有するに係らず汝は猶幼稚なりとて獨立せしめざるは恰も社會の競争場裡に雄飛するの技量を有する相續者に家政を委ねるを拒む老婆心に均しからん殊に明治二年以後有租地となりし田畑郡村宅地は明治二十二年より全免せしも明治三十二年より納税の

期となり酒造税及醬油釀造税は同年より各府縣と同一となり所得税法も議會を通過したれば此三税は他府縣と同一なり加ふるに一種の國税として道民は多額の水産税を負担せしよし之れを全廢することあるも過去に於て納附せし金額は國庫支辨の北海道事業費に流用せしに外ならず且徵兵令は既に施行せられ國家干城の責務を全ふするあり唯各府縣と相異するは地租及地方税なり蓋し地租を除きし其他の諸税は漸次同一にするも道民は故障なからん之れを要するに内閣員更迭せば道廳長官も亦更迭し施政の方針は屢々變更し進捗せず是れ自治政の必要なる所以なり長官如何に萬能の才藝を有するも七十萬の道民を満足せしむるは難し否個人的の考案は多數の討議に比すれば過誤なきにわらず小樽港よ汝の前途は多事なり亦多望なり自治政を布き世界に雄飛するの覺悟なかるへからず英の史家マッケンヂー曰く壓制主義は唯人民は之を甘受せるに依て存するのみ人民之を廢せんとするに當り持續する能はざるなりと而して自治の完成を遂げんと欲せば教育に如かずマッケンヂー曰く「太初に爲すへき事業の一は一般教育の手段を備ふるにあり」

下
編
終

◎米穀萬荒物薪炭

◎滋養味噌釀造

卸小賣

札幌野幌町



岩田商店

(電信零号〇ノ)

●土管煉化製造
●屋根瓦一式販賣
●大瓶御好次第

所

札幌野幌停車場前



館脇米藏

(電信零號〇ノ)

標商錄登



●紅梅味噌製造販賣

札幌野幌別停車場前

電報
符



松丸已之助

誠實



勉強

岩手樓

川村旅館

札幌野幌別
停車場前

(電信零號〇ハ)

和洋農産種物當道産ハ勿論各府縣産地特約純良請

合之品 **大勉強大販賣**

和洋菓子製造 **卸小賣**

石狩國江別停車場前

貧 岩淵忠太郎

(電信客號ヤマテ)

和洋農産種物

和洋菓子類

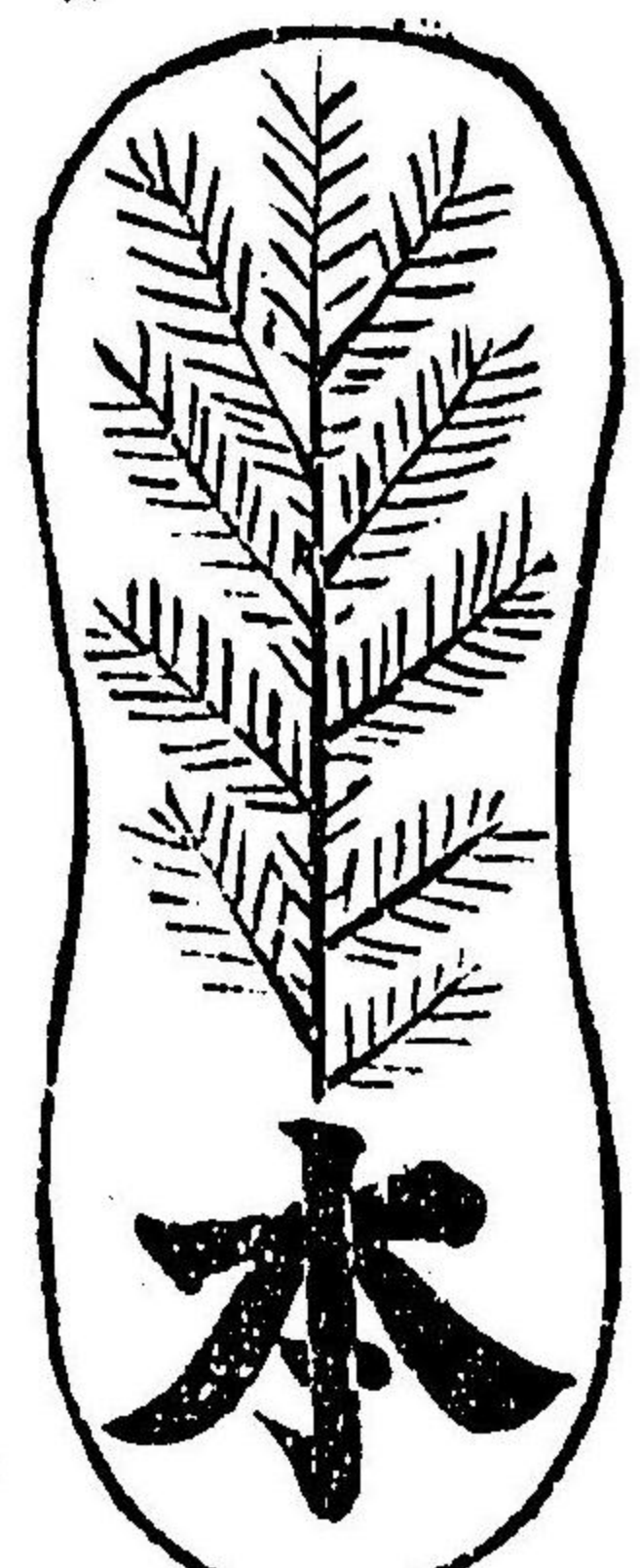
卸小賣

萬小間物類 小賣商

全國全町拾番地

貧 支 店

本 都 家 頭



商 登 記 號

刮 松 盛 堂

江別町三十六番地

松本信太郎

和洋菓子 製造販賣



江別 益盛堂 名物 邊見商店

御 萬 卸 蒸 物 小 菓子 掛 賣 物 賣

(電信客號)

江別停車場通 **邊見商店**

登錄商標 銘酒



石狩國江別町

醸造元

大河原文藏

米噲荒物雜穀商



醬油大販賣

石狩國江別町

商 標

工 越 後 屋

柳町久藏

和洋農産種物當道産ハ勿論各府縣産地特約純良請

合之品 **大勉強大販賣**

和洋菓子製造 **卸小賣**

石狩國江別停車場前

貧岩淵忠太郎

(電信岩號ヤマテ)

和洋農産種物

和洋菓子類

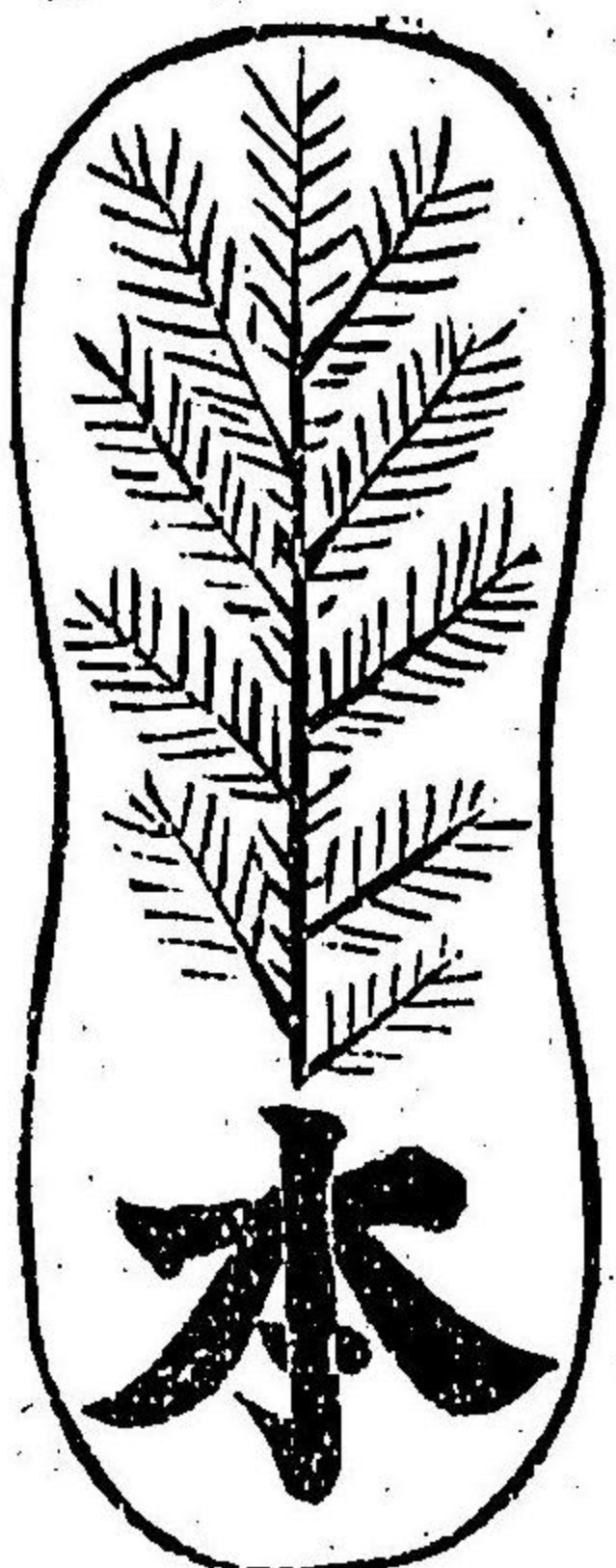
卸小賣

萬小間物類 小賣商

全國全町拾番地

貧支店

本都 家頭 饅頭



商號 登記 **古松盛堂**

江別町三十六番地

松本信太郎

和洋菓子 製造販賣

江別益盛堂



名物 **邊見商店**

御萬卸 菓子蒸物 菓子掛物 菓子小賣

(電信 岩號 (三))

江別停車場通 **邊見商店**

登録商標

銘酒



石狩國江別町

醸造元

大河原文藏

米噌荒物雜穀商

醬油大販賣

石狩國江別町

商標 **越後屋**

柳町久藏

北魁館

各位益御清福奉賀
候弊舍儀毎度御厚
情ヲ蒙リ誠ニ難有
奉鳴謝候付テハ平
素之御愛顧ニ酬ユ
ルノ方針ヲ以テ一
意専心鄭重ヲ旨ト
シ勉強可仕候間陸
續御來館之程偏ニ
奉希上候 謹言

札幌區大通西二丁目
八番地

旅宿 北魁館主

松前旅屋

札幌區北一條西三丁目

酒井シゲ

札幌區北四條西二丁目三番地

巴 醤油醸造元

電話フクヤマ 下福山本店

米雜穀商

石狩國江別町

電話ヤ 下福山支店

蒸溜 器械 木材挽割

電話モクコ 江別木工所

雜穀商

石狩國江別町

近江屋 井口商店

(電信零號井クチ)

- 吳服太物
 - 萬仕立物類
 - 和洋小間物
 - 洋酒罐詰類
 - 金物陶器類其他の各品
- 越前勝山煙草大販賣

石狩國江別町

澤谷商店

農産物賣買
米雜商

分 田中又七商店

石狩國江別町

(電信零號エムデ)

北海道毎日新聞
北門新聞
小樽新聞
北海新聞
東京新聞
全國新聞
外都各新開

廣告取次

石狩國岩見澤停車場前

小町新聞店

瀛車待合所

西洋御料理

◎ 日本御辨當

◎ ライスカレ

◎ 大黒すし

岩見澤停車場構内

田村亭

今松屋

吳服太物

和洋小間物商
烟草履物類

石狩國岩見澤

塗權藏

(電信零號マツヤ)

分

石狩國空知郡岩見澤町夕張通

注意

皆宜館
旅店

勉強

塗重藏

正 實
勉 強

旅 館

石狩國岩見澤停車場前

清水平吉

(電信略號シミ)

● 材 木 賣 買 商

● 土 木 建 築 請 負 業

● 薪 炭 大 販 賣

新

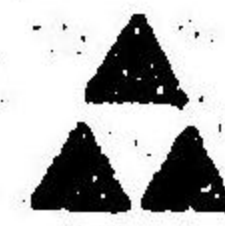
石狩國岩見澤停車場前

製 造 元

赤尾新之助

西洋形 ハンロ
日本形 農具一式
同 山 子 道 具
同 土 工 用 鐵 物
鐵 板 細 工 一 式

潔 清 會 席 御 料 理 仕 出



和 久 伊 助

石狩國岩見澤停車場前

(電信略號ワシ)

吳服太物
和洋小間物
下駄類
販賣業

石狩國岩見澤停車場通

◎ 淺海商店

米穀荒物
古着太物
類販賣

石狩國岩見澤町夕張通

◎ 安井商店

米穀荒物
=並
和洋農產種物類
販賣業

石狩國岩見澤町夕張通

◎ 毛利商店

材木仲買
挽割小賣
營業

石狩國岩見澤町夕張通南二番地

◎ 新谷治右工門

- 米穀荒物
- 各地銘酒
- 洋酒罐詰
- 和洋煙草
- 農産海産賣買所
- 味噌醬油合資會社製品販賣所
- 其他各品

中澤商店

石狩國空知郡
市來知市街地

(電信略號ナ)

- ▲古
 - ▲古
 - ▲古
 - ▲古
 - ▲古
 - ▲古
 - ▲古
 - ▲古
- 古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古
古古古古古古古古

北海道空知郡市來知
本町一丁目三番地

大山僚

土木工事請負業

全
綿子ル製造
洋服裁縫
諸仕立物類

卸商

林長左衛門
出張店

石狩國空知郡
市來知市街地
(電信略號シヤハ)

土木建築請負業
木材卸小賣商

石狩國空知郡
奈井江市街地

小林光次郎

木 材 種 類

- ◎清口鐵道用枕木
- ◎建築用材一式
- ◎挽割材一式
- ◎銑床
- ◎空木

鐵道貨物取扱兼

佐藤旅館

(電信略號〇二)

早達組

(電信略號ナ)

上川倉庫株式會社代理店

(電信略號〇ナ)

石狩國奈井江停車場前

佐藤松太郎

- 米雜穀類 ● 味噌醬油
- 萬荒物類 ● 洋酒罐詰
- 銘酒各種 卸 小賣
- 質屋業 (電信略號ヤ)

石狩國空知郡市來知市街地 **安田商店**

分監御用 雜貨商

市來知本町西一丁目廿番地

石狩國空知郡 **岡田商店** (電信略號カ)

- 農産賣買 ● 味噌醬油
- 萬荒物類 ● 洋酒罐詰
- 銘酒各種 ● 海産物類
- 萬乾物類 ● 青物果物

石狩國空知郡市來知本町西一丁目十九番地 **一朝野市太郎**

- ▲ 吳服太物 ▲ 和洋織物
- ▲ 諸仕立物 ▲ 小間物類
- ▲ 洋酒罐詰 ▲ 和洋煙草

石狩國空知郡市來知市街地

左右商店 (電信略號〇一)

銘酒都川 釀造
醬油味噌
米雜穀 商
萬荒物 商

石狩國澁川本町五丁目

石狩國 **坪田彌市** (電信略號ツホタ)

石狩國空知郡 澁川本町五丁目 (電信略號ヤマタ)

太渡邊商店

注意大勉強御便利ヲ
重シ御取扱可仕候
間倍舊御引立之程希
上候

醬油味噌酢

醸造販賣業

石狩國岩見澤町
南八番地

石黒商店



石狩國
空知郡
野村徳太郎

(電信略號ノム)

- 米穀味噌醬油
 - 雜貨
 - 諸國銘茶
 - 銅鐵諸器械類
- 所賣販

市來知本町東一丁目八番地

和洋農產物

當道產及各府縣

產地特約純良贈合

石狩國
空知郡
旅市來知本町
東一丁目十二番地
川福田重五郎
館

電信
略號
カフ一

大販賣所



石狩國
空知郡
佐藤藤造

(電信略號サトウ)

- 吳服太物
- 和洋織物
- 諸仕立物
- 小間物類
- 洋酒罐詰
- 和洋煙草

市來知本町東一丁目廿二番地

- 海產物
- 乾物
- 洋酒
- 罐詰物
- 青物
- 菓物
- 漬物
- 雜貨

卸小賣

銘酒芳の川 一手販賣

石狩國空知郡
瀧川本町二丁目

興朝野商店

(電信略號カネヨ)

靴馬具製造

大販賣

石狩國

空知郡瀧川本町二丁目

浅生清吉

(電信略號カネヨ)

全國

雨龍郡深川市街地

浅生支店

(電信略號カネヨ)

旅 人 宿

注意勉強

松代館

石狩國砂川停車場前

● 松代三之助

(電信略號マヨ)

和洋小間物卸
筆墨紙小
新形手遊品賣

余太田商店

(電信略號ヲチタ)

石狩國砂川停車場前

● 金

實 旅 館
加賀屋
石田平三郎

(シキルマ號略信電)

道 海 北	質 品	内 炭 山
良 純	石 河 合 東 洋 堂 藥 館	藥 種 賣 藥 小 間 物 た ば こ 其 外 い る
石 狩 國 空 知 郡 幌 内 炭 山 市 街 地	石 狩 國 空 知 郡 幌 内 炭 山 市 街 地	石 狩 國 空 知 郡 幌 内 炭 山 市 街 地
(ヨト 號 略 信 電)	(ヨト 號 略 信 電)	(ヨト 號 略 信 電)

正 實

旅 人 宿

飯 嶋 林 平

石 狩 國 空 知 郡
市 來 知 市 街 地

(電 信 カ クリ 略 號)

上 市 川 支 工 場	石 狩 國 空 知 郡 幌 内 炭 山 市 街 地	上 市 川 支 工 場	石 狩 國 空 知 郡 幌 内 炭 山 市 街 地
(ケスエ 號 略 信 電)	(ケスエ 號 略 信 電)	(マシ 號 略 信 電)	(マシ 號 略 信 電)

十

- 吳服大物
- 和洋小間物
- 陶製漆器
- 農産物仲買

石狩國空知郡砂川町

井佐藤鐵雄

全國全郡奈井江町

井佐藤支店

- 萬葉物類
- 和洋小間物
- 洋物類
- 生魚乾物類

石狩國砂川町
停車場前

松崎商店

(電信略號マツサ)

砂川岩をこし
名産

- 和洋菓子
- 掛物類
- 卸小賣

石狩國砂川停車場前

哥傳豫田清太郎

(電信略號イシ)

- 和洋藥工業藥繪之具染粉
- 各園賣藥洋酒 罐詰類化粧
- 品芳香藥 萬小間物類

石狩國砂川市街

春陽堂藥店春田辨端

(電信略號ハハ)

酒銘 壽あ川醸造

米穀販賣

荒物販賣商

石狩國空知郡

奈江村砂川市街地

倉土屋米吉

(電信略號ツナヤ)

會 御料理

仕出し

宗 寶船亭 舟橋宗三郎

石狩國砂川市街地

(電信略號フナツ)

- 吳服太物
- 和洋小間物
- 洋酒罐詰
- 教科書類
- 和洋煙草
- 硝子器賣藥

卸 小 賣

石狩國空知郡砂川町

山本益藏

(電信略號マヌミ)

●米穀荒物農産買賣商
●大坂酒 ●地酒 ●味噌
●醤油 ●砂糖 ●煙草 ●各種
右各種製造元ト特約致候ニ付精
々廉價ヲ以テ販賣仕候間多少ニ
拘ラス御購求被下度奉願上候也

③ 小野興太郎商店

(電信略號マルロ)

石狩國瀧川小路六丁目

米雜穀荒物商

石狩國瀧川本町五丁目

允 大野長太郎

(電信略號サヲ)

堅牢無比 靴製造販賣 優美

右大勉強御注文ニ應スヘク候ニ付
續々御申付アラシク

石狩國瀧川本町五丁目

犬飼製靴店

(電信略號ナヲ)

和洋農具類一式
萬金物商

石狩國砂川市街

上 中山商店

(電信略號ナカマ)

●米穀 萬荒物 ●萬金物類
●農産物 仲買 ●和洋煙草類
●和洋酒 ●錫詰類

大商店

石狩國砂川市街

△ 明圓政吉

(電信略號メエン)

米雜穀商

石狩國砂川市街

③ 角野與作

(電信略號カクヨ)

萬荒物 卸小賣
農産物 賣買商

石狩國砂川市街地

△ 浅田商塵

(電信略號キタ)

吳服反物

外

諸品

卸小賣

石狩國歌志内停車場前
山岸商店

(電信零號カネミ)

札樽共同運送組
共立栗山組
上川倉庫株式會社
取道扱貨所

雜穀萬荒物
石炭販賣商

石狩國歌志内停車場前
井福島政三郎 (電信略號
フシロ)

木綿反物

小賣專門業

北海道歌志内炭山町

兼川商店

●鐵道貨物取扱所

石狩國龍川停車場構内

早達組

上川倉庫株式會社代理店

(電信零號)

●タソ 早達
●チヨ 倉庫

精良名代 空知川製氷

卸小賣

石狩國空知郡龍川村

高木外次郎

(電信零號〇タカ)

○土木建築請負業

●護國生命保險株式會社代理店

石狩國龍川廣小路九丁目

波銀司

(電信零號ヤマカ)

全圖旭川市街

金管波支店

○銘酒空知川釀造元

石狩國龍川廣小路七丁目

廣部彌三吉

(電信略號カクヤ)

銘酒北ノ海釀造元

北海道小樽郡錢函村

廣部支店

石狩國歌志内停車場前

注意 勉強 旅館

石川重藏

(電信番號イシカン)

米穀荒物其他
雜穀委託賣買 商

●銘酒千とせ川

特約大販賣

石狩國歌志内停車場前通


◎大 大久保色之助

(電信番號マミ)

空知郡歌志内市街地

◎諸荒物商 大高木善藏

(電信番號カキタ)

- 日朝の井酒特約大販賣所
- 海國生命保險株式會社 代理店
- バンク 浪山石炭販賣代理店
- 鐵道貨物歌志内早送組 取扱所
- 内國通運株式會社貨物 取扱店
- 空知沿岸ノマ村行貨物運送店
- 北海道各新聞 取扱店

店 旅

肥陽館

石狩國砂川停車場前
井手尾シゲ

(電信略號オカ)

注 意 勉 強

- 高 荒 物 類
- 陶 器 類
- 高 小 間 物
- 和 洋 酒
- 農 産 物 買 賣 商

石狩國砂川市街

片 桐 與 作

(電信略號カタク)

誠 實

加 旅 人 宿

石狩國砂川停車場前

伊 勢 嘉 三 郎

(電信略號オカ)

勉 強

◎金物 賣
◎和洋 器具 賣
◎度量 衡器 式 賣
◎皮貨 類 賣

井出橋平

石狩國深川市街
電信略號一七

和洋 小物 賣
漆器 類 賣
北陸生命保險株式會社代理店
石狩國深川市街

村松屋佐藤武五郎

(電信略號マル)

新洋 純良 萬種 物販賣
干物 干魚 生魚 和洋酒
鐵器 類 卸 賣
てんむじなさつね皮買入所

全上中商店

石狩國深川市街
(電信略號クエ)

米穀荒物

農産物委託賣買
錦酒都川特約大販賣
石狩國深川市街

大塚商店

(電信略號ヲナ)

正 石狩國深川停車場前
大越屋 旅館
實 同停車場構内
御待合所 大越屋支店
西洋御料理
御辨當ナシ
(電信略號フコ)

石狩國空知郡
滝川停車場前

高盛陽館

誠實丁寧ヲ旨トシ御便利ヲ計リ御取扱申候間
陸續御來宿ヲ祈ル
(電信略號セウ)

石狩國
滝川停車場前構内
鐵道貨物取扱所
運達組
(電信略號タウ)

共立栗山組

(電信略號タス)

和洋藥工業藥
繪具類各國寶藥
洋酒類醫療器械
化粧品芳香藥

卸小賣

石狩國空知郡

瀧川本町三丁目

愛生堂

下 支番友造

和洋小間物
筆墨紙
新形手遊品

卸小賣

石狩國空知郡

瀧川本町三丁目

中 中垣商店

(電信零號リク)

米穀販賣商

農産仲買

石狩國空知郡瀧川本町三丁目

五 林 商店

理髮師

石狩國空知郡瀧川本町三丁目

信長門床

田中 信邦

清 潔 勉 勵
會 席 御 料 理
空 知 郡 瀧 川 本 町 二 丁 目
朝 日 庵
藤 田 才 市
(ヒサフ 號署信電)

太物古着 販賣

ひきつな 皮買入所

石狩國空知郡瀧川本町四丁目

仁科商店

(電信客號ニナ)

和漢洋藥品 繪具染料
各國有名賣藥 洋酒類

石狩國空知郡

瀧川本町四丁目

中谷延命堂

(電信客號マシ)

和洋小間物
下駄手遊品
和洋種物類
大 販 賣

石狩國空知郡瀧川本町四丁目

西澤商舖

(電信客號ニシヤ)

陶磁器類
御磁子器類
御銘茶器類
卸小賣

石狩國空知郡瀧川本町四丁目

榊田商店

(電信客號マシ)

米穀萬荒物 商

農產物賣買 商

銘酒 都川特約販賣所

石狩國深川市街

坪田商店

(電信客號〇イ)

石狩國奈井江市街

坪田支店

(電信客號〇イ)

銘酒 ぶか川

釀造元

石狩國深川市街

佐藤政三

(電信客號サマサ)

石狩國

深川市街

鈴木旅店

(電信客號ススキ)

誠 縣 實

旅人宿

和洋藥品 繪具染色料
醫科器械 洋酒鐵詰類
各國寶藥

石狩國空知郡瀧川本町四丁目

沖垣三省堂藥舖

(電信略號フキカキ)

江州正名前挽鋸及鋸
會津及諸國天主寺鋸

卸小賣

透々小賣シ附合所

石狩國空知郡瀧川本町四丁目

中細越政右衛門

各國海產物 煮干 萬乾物類
洋酒 鐵詰 佃煮 種類
和洋煙草 漬物 菓物類
西京會製造 洋種類

特約大販賣

右卸小賣

石狩國瀧川本町四丁目

山下正助商店

全國旭川忠別町十二丁目

山下支店

(電信略號ホシニ)

和洋種物諸國產地
特約仕入善良請合

大販賣卸小賣

伊豫今治製石狩印笈

北海道一手販賣

片粟粉製造卸

萬荒物卸小賣

石狩國空知郡瀧川本町二丁目

カ 村上商店

(電信寄號〇カ)

諸物品卸商

農產委託買賣

貿易毛皮買賣

繭生糸買賣

片粟製粉業

石狩國瀧川本町一丁目

石狩國瀧川本町一丁目
電話發號ハ

は

石狩國瀧川本町一丁目
電話受符ワカシフ

藤川兄弟商舖

吳服太物萬小間物

和洋種物荒物洋酒

米噲各種

石狩國空知郡瀧川字江部乙酒保

カ 村上支店

(電信略號マルカ)

瀧川の流れも清き本町に其の①の茶店こ
 そ宇治の製茶は本場のチャキ茶器招く手
 帳も優美の封筒世辭愛矯を巻煙草香味も
 裝飾も好の品々其外文具墨硯何でも筆紙
 の勉強は他へは譲らぬ

中川商店

正賞 ●呉服太物 ●和洋織物
 ●諸仕立物 ●硝子器具

●小間物類 ●和洋煙草
 ●洋酒鐘詰 ●筆墨紙類

廉價

石黒商店

(モトシイ 號器信電)
 (地街市村川深國符石)

萬物 荒物 小間物 陶器 洋類
 硝子 糖器 洋酒 鐘詰 和洋類
 砂糖 其他 種々 卸小賣
 多喜 川井 銘酒 特約大販賣
 朝の 老

札幌製粉特約一手販賣

石符國深川市街

⑤ 木下商店 (電信キタ)

●和洋藥 ●工業藥
 ●繪具類 ●各國有名賣藥
 ●化粧品 ●芳香藥
 ●醫療器械 ●洋酒鐘詰類
 ●截糖強壯丸特約大販賣所
 ●和洋小間物類 ●和洋農産種物

右 卸小賣

石符國深川市街

文生堂

下 玄番文七

(電信器號カキト)

藥 書 筆 墨 種 林 紙 販 賣

石狩國深川本町一丁目

越 名越商店

雜 貨 商

石狩國深川市街

福安宅又次郎

全國全兵村御用達

福安宅支店

(カダマ號略信電)

旅 又 館

石狩國深川川停車場前

信 陽 館

信濃屋

細田音次郎

(電信略號ホソタ)

越 後 屋

石狩國深川市街

板垣商店

吳服太物 洋反物
仕立物類和洋小間物

洋酒雜貨 布團類
右卸 小 賣

(電信略号ニチコヤ)

北海道石狩國上川郡旭川宮下町拾壹丁目
四五六七八九十號地

上川倉庫株式會社

本業ノ外委託賣買貸附金荷爲替并ニ炭鑛線官
線各驛ニ代理店ヲ置キ貨物運送ノ取扱ヲ爲ス

札幌酒造合名會社笠原組釀造特約大販賣所

北海道札幌區南一條西四丁目

可 笠 原 喜 助

有名銘酒笠の雪釀造發賣元

北海道上川郡旭川本町一丁目

可 笠 原 嘉 助 支 店

(コウソノ號略信電)

(サカ義名信電)

誠 實

旅 人 宿

館 三 浦 屋

旭 日 樓

立 野 庄 吉

(電信略符
ミツラヤ)

石狩國旭川停車場前

強 勉

三十九

誠 實 勉 強

旅 人 宿

山 館 夕 夕

(電信略號ヤマタケ)

石狩國深川市街

米穀荒物商

農產賣買

石狩國深川市街

太田商店

(電信略號ヲヲタ)

吳服太物 ● 和洋織物 卸

● 諸仕立物 ● 小間物類 小 賣

● 和洋煙草 ● 洋酒罐詰

石狩國深川市街

北倉商店 (電信略號キフ)

● 北海生命保險株式會社代理店

● 和洋洋藥 卸 小 賣

● 各國賣藥

● 和洋種物

● 和洋煙草

石狩國深川市街

藥舖加藤與三

(電信略號マルカ)

三十八

吳服太物萬仕立物類
和洋小間物洋酒罐詰
金物陶器類萬漆器類
萬荒物類洋傘帽子類
其他各品 **卸小賣**

石狩國瀧川本町四丁目



小原清兵衛本店

(電信略號コセ)

全國深川村字チクシベツ



小原支店

全國深川村ヲツナイ停車場前



小原支店

反浦古物類 **卸小賣**
石狩國空知郡瀧川本町三丁目
河内山商店
(電信略號カワ)

保各國懷中時計 各種販賣
附置時計掛時計

其他寒暖計晴雨計及附屬品等種々尙未修繕
ノ儀ハ一層念入保險附テ以テ安價ニ修繕
致シ差上申候

石狩國空知郡瀧川本町三丁目 元大泉 館跡

誠務堂石川時計店

●日本形農具一式 ●西洋形ハロー
●全山子道具一式 ●萬ボールド類
●全土工用金物一式 ●萬鐵板細工一式
●木挽鋸 ●天王寺 ●及ツギ及ヤキ
石狩國深川市街

鐵工場 新木中吉

(電信略號アラヤ)

旭川 旭
前場車停
旅館
宮越屋
(シコヤミ號器信電)

廣告

官線鐵道貨物取扱九福組
主任兼 **福旅館**
各地運搬請負業兼土木
工事請負

△ **札幌共同運送組**

旭川代理店



共立栗山組

旭川代理店

上川郡旭川市街地停車場前



渡邊六四郎

電信略號(テマル)

- 米穀荒物卸小賣
- 北海道産毛皮仲買
- 札幌製粉特約大販賣
- 札幌名産片栗温飩販賣
- 和洋砂糖類各種
- 洋酒罐詰類色々

札幌後藤合名會社 上川代理店

北海道上川郡旭川本町二丁目

⑤ 後藤慶治商店

發電名義(マル五)

●米穀荒物類

●農産物賣買

特約大販賣品目

日 篠路醬油

日 室蘭醬油

銘酒千とせ川

銘酒大坂キ印

石狩國旭川本町四丁目

夕越後屋

藤島芳藏

(電信寄語カ子マ)

- 米穀荒物類
- 又滋養味噌一手販賣
- 銘酒豐年特約大販賣
- 銘酒旭川特約大販賣

石狩國旭川本町四丁目

④ 進藤勇助 (電信略號)

(シノユ)

誠實勉強

○硝子器

○和洋紙類石

○瀬戸物類狩

○和洋農具國

○萬金物類旭

○諸官廳御用達

○柳行季支那靴

○土工建築用具

○萬洋板細工

○諸國塗物

○萬荒物

土谷



商店

③ 味噌醸造大販賣

石狩國旭川本町四丁目

② 下村長藏

(電信略號○チロ)

卸小賣

(電信略號マルコ)

和洋銅鐵農具類
度量衡器販賣所
大花輪商店
石狩國旭川本町四丁目
(發電名義トミ)

精米大販賣

農產物販賣



石狩國旭川

荒井商店

(發電略號アラ非)

●吳服太物
●諸仕立物
●西京織物
●洋反物
外御注文ニ應ス

右卸小賣

石狩國上川郡旭川
本町五丁目

林欽三商店

(電信略號ハヤシ)

●●●●●●●●
萬鹽魚乾
大洋酒坂
銘罐于物
酒詰魚類
大販賣
製酒燒酎特約
銘酒等乃雪特約
てん
きつね皮買入所
むしな
石狩國旭川本町七丁目
全圖全町十六丁目
可田崎商店
可田崎商店
(電信略號カサキ)

米穀萬荒物商
農產物賣買所
毛皮賣買所
味噌特約大販賣
越醬油一手大販賣
六條生命保險
株式會社代理店
石狩國上川郡旭川本町七丁目
力岩本岩太郎
(電信略號カシカ)

米穀萬荒物 卸小賣
農產物委託 賣買

銘酒 ●正宗●千歲●八千代
●澤龜●豐漁●豐の明

銘葉●山櫻●北ノ櫻●順風
イ印醬油特約大販賣

大日本生命保險株式會社 申込所
東京物品火災保險株式會社

石狩國上川郡本町七丁目

◎朝日商店

(電信略號アサヒ)

○家屋物品火災保險會社代理店
會席 御料理

石狩國上川郡旭川本町六丁目

◎第一樓

(電信略號〇サ)

日本生命保險株式會社保險申込所

土木工事請負業

石狩國上川郡旭川

馬場泰次郎

内外農產種子 大販賣

◎弊店販賣の種類と農科大學の產品は勿論内外各地の本場及び農園等より産出する最も純良の種子にして多量の收穫あるものを販賣し種苗の撰擇は學理と實際を併せ鑑み本道に適する改良請合の者に有之候に付何卒陸續御用被仰付度奉願上候
◎農會其他の団体より共同御購求の向へは特別大割引可仕候且つ販賣御望みの方は殊に御照會を乞ふ

◎岩手縣産ホロキ莨 特約一手販賣
◎秋田縣魚釣針

北海道札幌區南一條西一丁目二番地

◎本店 細川初太郎

石狩國上川郡旭川本町七丁目左ノ四

◎支店 細川佶太郎

農産種子 ●●●
各種煙草 ●●●
各系品々 ●●●
麻系品々 ●●●
魚釣道具 ●●●

内外農產種類 荒物農產種類 商子

鐵道貨物取扱

石狩國上川郡旭川停車場前
上川倉庫株式會社

代理店

(電信略號アソ)

和洋農產苗種子
產地特約仕入善良
請合

をろし小賣所

石狩國上川郡旭川本町九丁目

瀬古今治郎

(電信略號セコ)

◎◎◎◎◎
醫工高齒漆
用用名磨類
藥藥賣石一
品品藥品礮切
◎◎◎◎◎
繪洋線金
具酒香銀
染罐練箔
料詰香粉

石狩國上川郡旭川本町九丁目

中屋藥舖

(電信略號ツニ)

◎◎◎
米穀荒物
和洋銘酒
卸小賣
◎◎◎
食料品一式

石狩國上川郡旭川本町九丁目

久保田商店

全國空知郡下富良野
久保田支店

(電信略號クホタ)



◎ 呉服

◎ 太物

◎ 洋反物

一弊店取引主義ハ總テ眞實ヲ旨トシ専ラ御便利ヲ謀リ以テ業務ヲ擴張シ從來ノ信用ヲ永存セシメントスル者ナリ

一弊店ハ京都及東京仕入店ニハ尤モ所業ニ老練ナル店員ニ在勤ヲ命ジ汎シ商品産地商況視察ヲ擔當セシム

太岡田呉服店

町港榎小道海北

一弊店ハ専ラ意匠斬新ナル流行品ヲ仕入益々注意勉強ヲ主トシ御需要ニ應ジ可申候

一總テ商品價格ハ一切懸引ヲナサズ故ニ假令御書面ヲ以テ御注文アルモ聊カ差別ナキハ弊店從來仕來リニシテ店則ノ定法ナリ



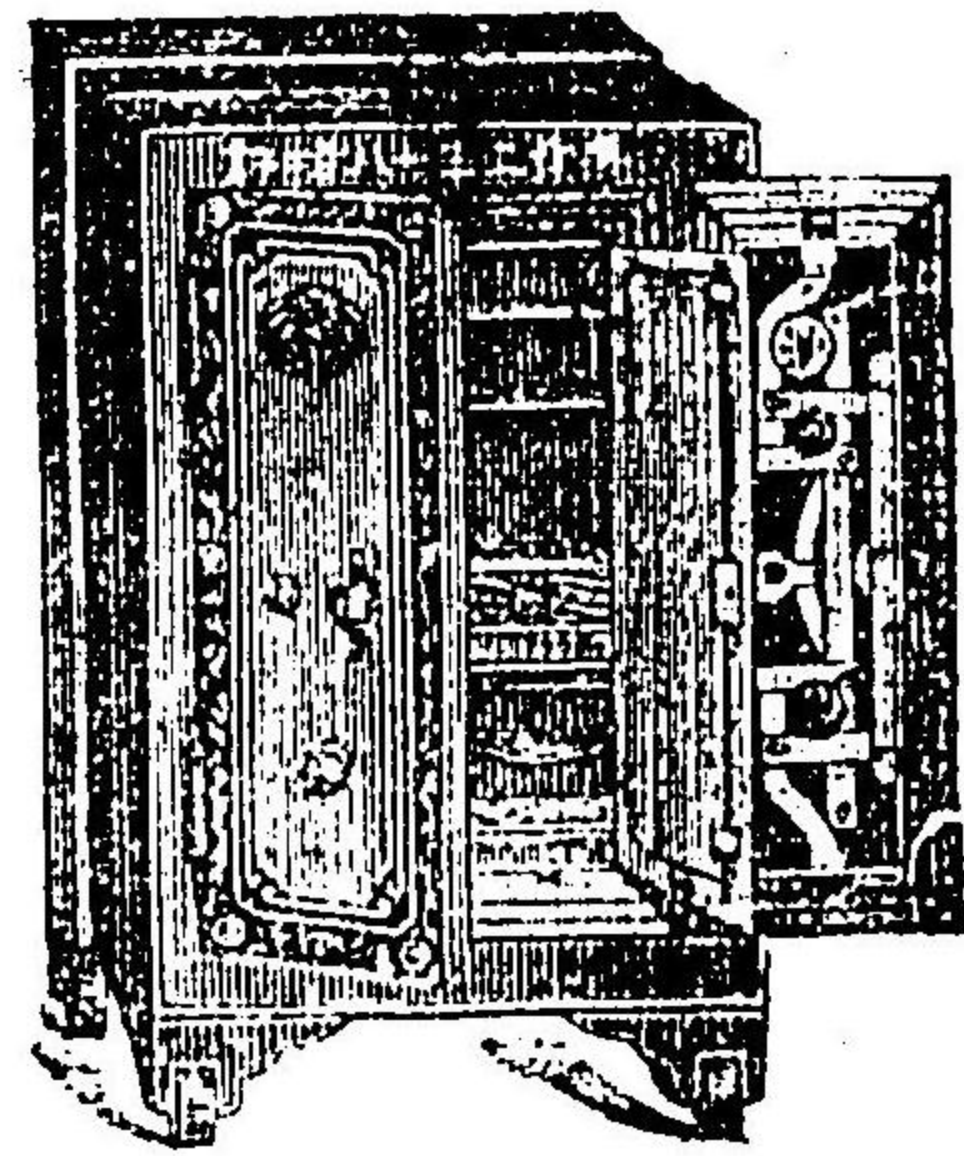
◎ 帽子

◎ 洋傘

◎ 近煙草

防火 金庫販賣商

金庫



定價表及雛形御入用之御方

ハ御報知次第御郵送仕候

小樽港入舟町四十九番地

松原平兵衛

(電信器號マツハラ)

海陸物産賣買

○大物洋織物仕立物類

○煙草和洋酒食料罐詰商

○荒物其他日用品各種

天鹽國留明郡留萌港

沼田久平商店

土木建築請負業

小樽港入舟町七拾四番地

磚菅原吉太郎

(電信器號スキ)

硝子物ランプ商

長堀岡榮次郎

小樽港堺町拾六番地

北海道

小樽港住初町五番地

平旅店豊涼館

誠實ニ御取扱可仕候間陸積
御來宿之程奉希上候

各國時計 大販賣

并ニ修繕念入ニ出來可仕候

小樽港色内町二番地

青山京作

輸 出 之 部 地 賣 之 部

內外鐵道用枕木
銃床柳材類
軸木丸太類
角材各種

伊藤商店

概檢材唐木類
米利堅杉神代杉類
其他造作品各種
建築用挽割材

北海道小樽港有幌町拾二番地

伊藤源三郎

明治拾參年九月九日開店

本店 北海道小樽港

支店 新瀉縣直江津

商 號 三

米穀肥料問屋

早川善太郎商店

販賣部 委託部 精米部

電信畧號 (カ) 子 (三) 又 ハ (三)

各石油 種油 大販賣

白絞油 機械用礦油 香水色油類

銘金 露 特約販賣

タンク石油

小樽港港町三番地 效宮川辰次 (發售略號ミヤタツ)



商號

海陸物產委託買賣

荒物卸商

小樽港々町廿六番地

佐野喜一郎商店

電信略號(サノキ)又ハ(サ)

品	賣	販	品	捌	手	一
山	鹽	石	和	北	三	千
櫻	井	油	洋	一	安	稻
烟	素	麵	砂	醬	烟	酒
草	麵	類	糖	油	草	
	類	類				

每說
六頁
以上

北海道唯一ノ實業大新聞

小樽新聞

議論公平ニシテ記事正確

定一ヶ月金三十錢
價全郵税金十二錢

發行所 小樽區港町 小樽新聞社

精米大販賣

米雜穀委託賣買

德會根德松商店

(電信界號ナキトク)

小樽港色内町

和洋銅鐵類

諸金物類一式

度量衡器

大販賣所

東京瓦斯
株式會社
コールタール特約

小樽區色内町八番地

名取商店

(電信略號ナタカ)

新聞賣捌廣告取次

新聞ハ札樽 京阪發行ノ分ハ何種類ニ拘ハラズ
販賣ス廣告取次ハ新聞賣捌店ナル故料金割引其
他ニ於テ便利ナルヲ他店ノ及バサル所ナリ

和洋製本活版印刷

活字諸器械全備シ材料豊富ニシテ需用各位ノ利
便ヲ増進セシ結果ハ從前ノ工場ニテ愈々狹隘ヲ
告ケ茲ニ適當ナル工場ヲ新築シ精良ナル諸器械
ヲ増加シ面目ヲ一新セリ

小樽色内町 (郵便電信局隣)

其水堂活版所

所主 鹽野喜作

場水灘律撰

壹年間

壹樽三付
金五十錢割引

常夜殿

常夜殿

金
鷄
谷

入 升 六 斗 四

特約大販賣所
小樽色内町

幸 大渡 幸吉

富 村田幸次郎

小樽南濱町五丁目

特約店 今 岩城 支店

商 組 釀 芳

場 本 灘 津 攝

四斗六升入

明 窓 冠

明 窓 冠

特約大販賣所
札幌南三條西一丁目

三國屋

源 南部 源 藏

小樽色内町

源 三國屋 支店

小樽南濱町五丁目

特約店 今 岩城 支店

壹年間 二樽 金五十拾錢割引

會 商 組 釀 芳

日本郵船株式會社船客取次所
小樽港色内町十五番地

旅館 越中屋治三郎

(電信略號エチヤ)

◎小樽は本道第一の商港として

定 價 壹ヶ月金拾八錢
全郵税共金三拾錢

小樽商業新報

每夕
發行

◎海陸物産市價の指針地たり

發行所小樽區船穂町小樽商業新報社

營業品目

呉服太物

唐物類

洋小間物類

襪類

洋服地質

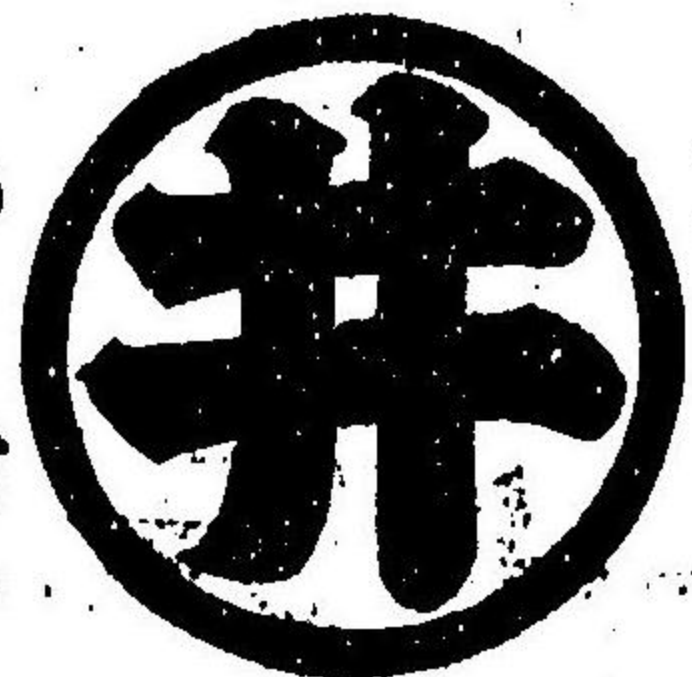
現金

正札

弊店ハ相場ニ注意ナ不怠仕入元ノ特約廉價ニ買収法ヲ
講シ薄利ヲ旨トシ誓テ不低ノ物品ハ賣捌セサル嚴則ニ
御座候

卸賣

小樽港色内町二十番地



今井支店

小賣

洋吳物服方方

弊店ハ需ニ應シ如何様ニモ精勵爲致注意ニ注意ヲ加ヘ
偏ニ御得意様方ノ御便利相謀リ可申候ニ付多少ヲ不
御用向被仰付度伏テ冀望仕候

世

時間と炭料を省きて、煮焼を神速ならしめ、殊に煮味の精良なるは富貴竈の特色なり。軽便にして手数を減し、炊事一切の用を寸時に達し得るは富貴竈の特色なり。



富貴竈之製鐵商標



製造發賣本舖 阿部彦四郎商店
小樽地方 特約販賣所 小樽港色内町二十七番地
大販賣所 中山銅鐵商店

好

混爐及暖室爐の代用を爲し、火災の憂なき安全唯一の器なるは富貴竈の特色あり。輕便にして何處へ持行くも即座の使用に適するは富貴竈の特色なり。

富貴竈用法明細書アリ無代附與ス遠方ハ郵券ヲ要ス

確 委 實

海陸物產 井産物 荒物類

委託買賣專業

電名信 (マハ) ハ又

濱平政吉商店

小樽區色內町四拾一番地

吳服太物商

外御注文ニ應ス
小樽港色內町十六番地
◎岩城吳服店
(電信略號イマキ)

小樽港

稻穂町七番地

石灰 生石灰
貝灰 花粉灰

余佐藤製灰場

鑛山出頭、筆耕、代理買賣周旋
訴訟鑑定紛議、仲裁諸官廳
伺筆耕收入印紙約束手形賣捌所

小樽區裁判所筋向色內町六拾一番地

岩谷定藏

(電話番號第百二十一番)
電信略號イマキ



合名三井銀行小樽支店廣告

資本金五百萬圓 積立金參百七拾八萬圓

本店所在地

東京市日本橋區新右衛門町千六番地

當支店所在地

北海道後志國小樽區色內町十五番地

各支店所在地

大坂 京都 橫濱 神戶 名古屋 赤馬關 廣島
函館 大津 和歌山 四日市 長崎 足利
門司 橫須賀 三池 松阪 深川 (東京)

社 員

- 三井八郎右衛門
- 三井元之助
- 三井源右衛門
- 三井高保
- 三井八郎次郎
- 三井三郎助
- 三井復太郎
- 三井守之助
- 三井武之助
- 三井養之助
- 三井得右衛門

明治三十二年十一月

定期預金 一年以上 五分
定期預金 六ヶ月以上 四分五分
當座預金 日步 壹錢
小口當座預金 日步 壹錢貳厘

株式會社 小樽銀行

資本金 五拾萬圓

本店

小樽區色內町七番地

支店所在地

余市(後志)
岩内(後志)

古平(後志)
增毛(天鹽)

頭取 添田 潤

監查役 町野 清平

副頭取 猪俣安之丞

監查役 倉橋 大介

取締役 林長左衛門

支配人 小寺 芳次郎

取締役 高野源之助

爲替取組先 貳百五十七ヶ所

株式會社 屯田銀行

資本金 壹百萬圓
取引先 各地 樞要ノ地ニアリ

本店 後志國小樽區色內町十一番地

支店 石狩國札幌區大通西三丁目十番地

全 膽振國室蘭札幌通百一番地

全 後志國岩内橋町七十一番地

全 渡島國江差中歌町九十番地

明治卅二年七月廿三日株主臨時總會ノ決議ニヨリ全卅三年一月一日ヨリ行名ヲ株式會社北海道商業銀行ト改稱ス

小樽區南濱町三丁目二番地

株式會社 小樽貯蓄銀行



◎各代理店所在地

◎小樽開運町 ◎小樽手宮町

◎札幌南條西丁目 ◎瀧川本町三丁目

◎夕張登川市街地 ◎旭川一條通一丁目

◎余市城中町 ◎岩内御釜内町

◎古平港町 ◎美唄船橋町

◎増毛箱葉町

一時蓄預金利息年六分六厘

右之外定期預金。當座預金。附設預金。

勉メテ歩合好メ又貸付金。手形割引。

可成低利ニ精々御便宜ニ御取扱可致候也

肝油魚油沃度

右製造販賣

小樽港稻穂町畑拾二番地

高瀬國松

天鹽國增毛郡別所村

高瀬支店

後志國高島郡祝津村

高瀬支店

商 森 號

委託物產陸海

商 買 仲

小樽色内町 四拾番地

電信略號
全又ハ

森田寅松

※ 牧口商店

小樽區稻穂町畑十五番地

◎ 新夕張炭 賣捌所

◎ 日宗生 代理店

海陸物產委託問屋
谷

發電名義 (クワセ)

桑田清七商店

小樽港色内町五番地

金銀懷中時計類各種
掛時計置時計類各種

其他附屬品類

廉價販賣

小樽區色内町廿九番地

時計商 工藤清作


耐燒酒洋和

種各酒坂大

賣小卸賣販

地番十四町内色港樽小

店商 **幸** 田神

醬味 油噌 釀造販賣
 商標

 小樽港信香町三番地
 馬場支店
 電 信 號
 八

醬味 油噌 釀造販賣處
 商標

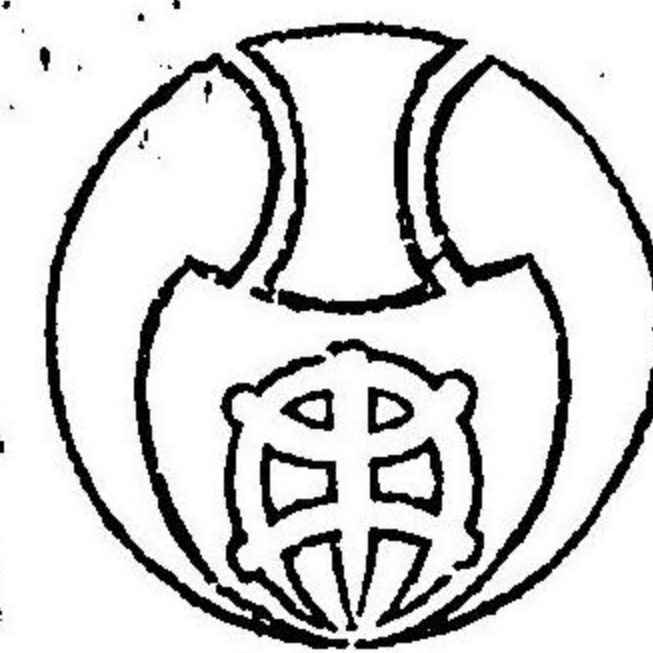
 小樽港信香町卅二番地
 八橋本與十郎
 (發電略號ハシロ)

商標

 品
 業專 蕪糸麻表疊
 小樽港山之土拾八番地
 若林甚太郎商店
 電 信 路 號 (ワカシ)

林檎大販賣
 本園産出の林檎は漸次改良を加へ他に
 比類なき良種たり年々數万斤の園いも
 致候はつき陸續購求御申込あれ
 小樽港真茶町畑十七番地
 西村善六農園
 米 雜 穀 貨物 商
 又坂井岩太郎商店
 小樽港勝納町二番地
 (電信略號サカイ)

萬
 仲買 仲立 氏次 代理 紹介 周旋 請看



小樽用達社

極メテ確實ニ町寧ニ

泰電畧名ヨウ

電話番号未詳

懇切ニ勉強可仕候

小樽區相生町貳拾七番地

遠藤次郎右衛門商店
 小樽港高砂町一番地
 二
 柳原喜兵衛商店
 卸小賣

柳原喜兵衛商店
 卸小賣
 小樽港堺町廿一番地
 ◎林檎 ◎玉葱
 ◎乾物 ◎荒物
 ◎海産物

賣販價廉



新斬匠意

萬袋物高

清華堂

小樽區入舟町五十一番地

富

醫油類

大坂銘酒

銘酒銘印

富久泉
燒酎

自釀發賣

村田幸次郎商店
鷹

釀造

販賣所

小樽港色内町廿六番地

㊦

村山太作酒店



小樽港色内町十番地

米穀海產委託賣倉庫業

全印銘
 豐明
 八重櫻
 小陰山櫻
 夜具綿櫻
 甚他荒物色
 酒酒酒
 荳荳荳
 各種
 候也

小樽港
 南濱町四丁目一
 大七家平支店

醬油味噌卸賣專業

小樽港南濱町拾二番地
 河合俊太郎

電 信 略 號
 カ ク 一

海陸物產商
 小樽港南濱町五丁目一番地
 久吉商店

電信署名(ヤマヒッサ)又ハ(ヤ)
 電話番號(三拾六番)

和洋小百物
洋酒罐詰御膏

札幌ビール 地球印 葡萄酒大販賣
函館ビール

北海道小樽區入船町四十三番地

十堀井音次郎商店

電話 九〇一

海陸物産 委託問屋
米穀食鹽 委託買
砂糖賣買 鮮魚乾魚
委託賣買

小樽港南濱町二丁目
宮村慶吉商店

電信略號(ミヤケイ)

全所 全支店 鮮魚部

造柿種藥洋一式用品必造融具道械器造酒

日本清酒用藥劑各種

●京都令大坂令三福令各縣
●尾崎專賣特許日本酒川各業劑品
●清酒火止新劑內出製
●日本酒川藥劑外井製
●日本酒川藥劑若井製
●北海道一手特約販賣所
●北海道一手特約販賣所
●北海道一手特約販賣所
●大坂市完柿造各種一手販賣所
●加賀國冷澤市製漆各種一手販賣所

大西與一商店

官賣藥部出品日本酒
許用藥劑品製造發賣元

大西與一商店



改良有効種麴

- 大坂市(上田伊之助)もやし特約販賣
- 飲料糖臭(ア)ニ混成燒酎
- 桶木大坂輪竹空樽空瓶各種
- 吉野産樽丸印出瓶
- 大坂坂竹(サ)ラ各種
- 袋木綿澁染仕立袋各種

醸造工用酸液器驗温器ノトル各種

- 口金具錫金紙コロッツア各種
- 清酒番油防腐止メ藥品各種
- 酒類用商標紙(ペ)各種
- 染料(イ)ン(ジ)ン(ク)各種
- 最上等別々水香及ヒ根木香各種
- 改良香口并ニ硝子製火香口桐製火香口類
- 小樽港色内町西十五番地



社會式株險

保命生國海

資本金十二萬圓
本社東京市日本橋區正町四番地

小樽出張所

社長 園田實徳
代理店(内國)ハ勿論台灣
朝鮮補港各地ニ有
小樽區港町三十番地
出張所長 窪田忠愛
診察科業士 高橋忠治

海陸物産委託賣買
併米穀荒物販賣

輪島谷豊商店

電信零語(ワトヨ)
又ハワ

鐵道積卸運搬業

宮

小樽區

手宮停車場前

宮尾次郎

金物卸專業

小樽區色内町畑十番地

石積支店

(電信略號イシ)

海陸物産商

米穀雜貨商

小樽港町廿番地

舊板谷商店跡

星野茂八

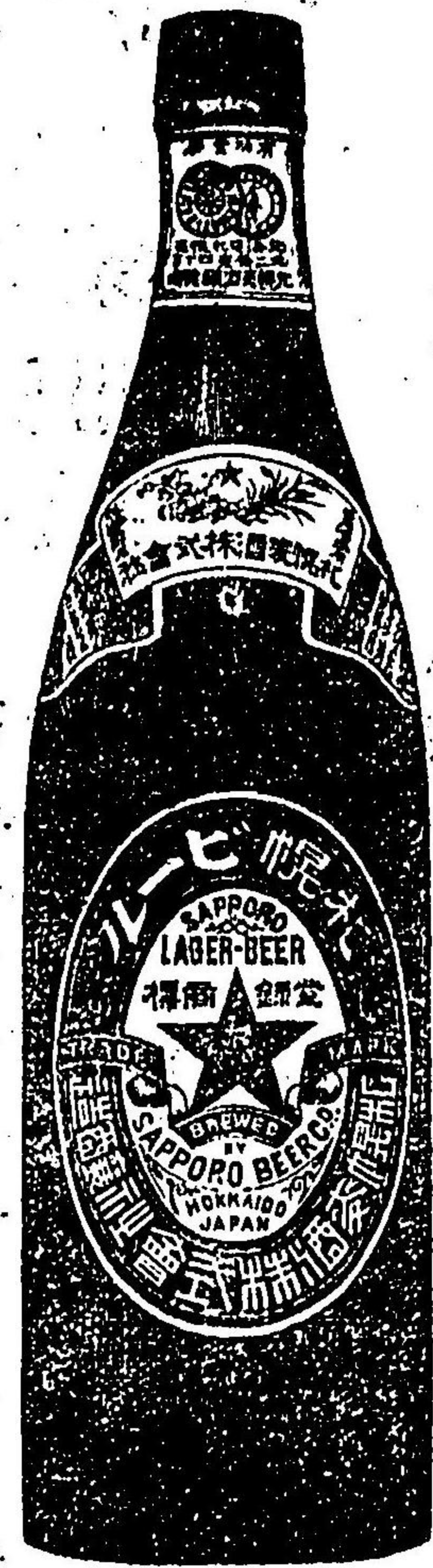
商號

星野(ホシノ)茂八(ハチ)

宮内省御用

札幌ビール廣告

札幌ビールの淡白にして四季の飲料に可なり



陸海軍御用

札幌ビール 濃厚にして最も滋養の特効あり

北海道札幌區北二條東四丁目 釀造元 札幌麥酒株式會社

齋藤藥舖

醫家處分調劑
 中外器械類
 消毒器材
 工業用品
 牛痘苗
 實美埤里亞血清
 衛生滋養品藥
 賣
 右之外總テ精良品ヲ撰ミ精々廉價ヲ以テ多少ニ拘
 ラズ迅速御用ニ應ジ候ニ付陸續御用命之程奉願上
 候也

ハ最新夜ヲ問ハス町噂綿密
 ハ最新藥並ニ精良品ヲ撰ム
 ハ醫藥用化學用及患者用
 ハ陸海軍御用東京精製舍特約
 ハ酸類色素其他都テ薄利ニ
 ハ東京牛痘館角倉製造最新採收
 ハ最新採收品備置キ極メテ御便利ニ
 ハ各地有名藥店ト特約販賣
 ハ新藥ソマトローゼ、オイカゲン、リトビツク氏
 ハ肉エキス、スコット乳葉及コンデンスミルク其他各種

札幌區南一條西二丁目五番地
 齋藤藥舖
 藤弘輔



製靴所

札幌區南一條西二丁目
 岩井信六
 (電信略號イワイ)

齒科
 廣告
 每日 午前八時ヨリ 午後八時マテ
 札幌區南一條西二丁目 十二番地
 齒科醫橫山治療所
 但シ毎月(三ノ)江別山下館ハ出張ス
 療

雜穀 賣買部
米穀 荒物 販賣部



本間國藏商店
(電信略號「ルイワ」)

北海道札幌區北六條西一丁目一番地

瀛車乘客 高等御待所

西洋御料理

和洋御辨當

北海道

札幌停車場構内

川中兼太郎

過磷酸肥料 重過磷酸
動物肥料 (骨血肉粉)
鯨油粕 大豆粕

石灰外品々



札幌北五條 東二丁目角



北海道官私鐵道
貨物取扱所
札幌運送組
發電名義サウン

日本郵船株式會社荷物船客取扱所
日本運輸株式會社管理店
北海道官私鐵道貨物取扱所

札幌停車場前通



新田由平

各地方 阿波國正藍染木綿 織物御經濟衛生所



阿波國名西郡石井町 (電信零號)

石井本店

石符國札幌大通東二丁目 (サ全)

石井支店

全國空知郡沼貝村美唄 (ヒ全)

石井支店

全國雨龍郡深川市街 (フ全)

石井支店

全國上川郡永山村番外地 (ナ全)

石井支店

誠實勉強

新

札幌區北一條西四丁目

岩崎旅館

電燈會社ノ向フ

札幌
區
北
一條
西
四
丁
目

旭

館

廣告

鈴

學館 宮田 西四丁目
傳車場 宮田 西四丁目

木

旅

東海 志賀 花市 市内
明達寺 減價 便利

館



誠

神田床

實

叮

嚙

札幌區南一條西三丁目

佐藤市太郎

全區南二條西四丁目

佐藤支店

全區南三條西三丁目

佐藤支店

全區北四條西四丁目

佐藤支店

營業品目

- 機 量 器 械 一 式 銅 鋼 鐵 材 各 種
- 測 量 器 械 一 式 銅 鋼 鐵 管 各 種
- 製 圖 器 械 一 式 ア ス ヘ ス ト 各 種
- 電 話 器 械 一 式 ロ ッ プ 類 各 種
- 電 信 器 械 一 式 ベ イ ン ト 各 種
- 醫 療 器 械 一 式 和 洋 セ メ ン ト
- 寫 真 器 械 一 式 和 洋 紙 類 各 種
- 和 洋 繪 具 一 式 筆 墨 文 具 各 種
- 各 塗 料 品 一 式 米 雜 穀 荒 物 類
- 西 洋 家 具 一 式 味 噌 醬 油 類

品川製耐火煉化特約一手販賣

札幌區南二條西二丁目十二番地

官廳會社用達商

赤星榮三郎商店

(電信略號アカイ文ハア)

◎札幌馬具製造所
◎北海靴製造元

北海道札幌區北一、西三、二番地

電燈會社隣

黒柳喜三郎

種 子 製造 部

札幌區北一條西四丁目停車場通

五野澤政之助

(電信略號五ホシ)

毛皮類一切

仲買商

六

札幌區南二條西四丁目 藤田彌次郎

誠旅
人 建部藤吉
宿
札幌區南二條西三丁目
(電信番號キウホシ)

力
米雜穀産物店

札幌區南二條西四丁目

久慈勘吉
(電話番號オク)

札幌區南二條西六丁目

鳥朝 魚朝

札幌區南二條西六丁目

賣 販

造

釀

門 明 吉

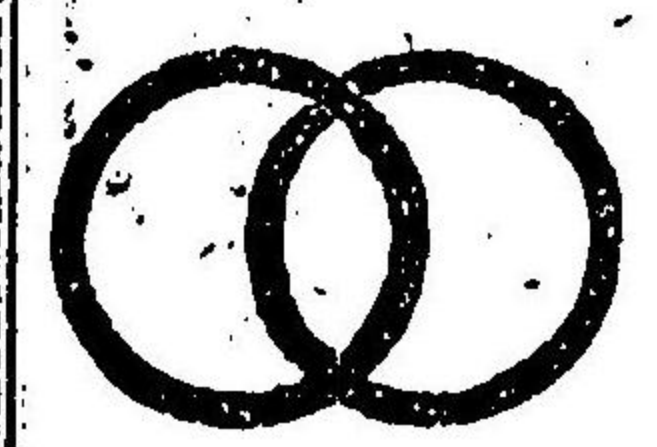
改良保險附農具製造大販賣

製 品 目

鐵	鋸	平	唐	窓	八
口	田	鋤	鋤	鋤	口
各	各	各	各	各	各
種	種	種	種	種	種

外天王寺打及物類一切	稻	寸	大	及
	拔	切	工	廣
	色	鑄	鑄	鑄
	々	各	各	各
		種	種	種

右ノ品精々安價ヲ以テ販賣仕候間多少ニ不拘御用向仰付被下度奉願上候 敬具



金 岩 商 店

札幌區南四條東二丁目八番地

銘 酒

大 揚 利

別 製 燒 酎

- ◎ 米穀味噌醬油
- ◎ 萬荒物日用品
- ◎ 農產物賣買所

源

新 卯 吉

釀 造 元

札幌區南一條西七丁目

(電 信 略 號 シ ン)

大 販 賣 店 勉 強

住

(電信略號〇ヌミ)

波多野與三郎

● 釀造元販賣
米穀荒物商

札幌區南四條西二丁目拾二番地



住乃江
通乃山

サ

(電信略號イシカワ)

石川定七

札幌區南三條西一丁目

舊土人細工いろく

茶商

新斬發明風藥の隊長



風はらひ改良の良薬

如何なる引かせも忍ぶ金澤

發賣 藥種 問屋山形勉強堂

定價大包二十錢 中包十錢 小包五錢
札幌區南三條西二丁目角



萬金物

毛請合品々



毛

札幌區南三條西二丁目角
鹽崎商店

卸小賣

二五六〇號稻扱

北海道一手特約

販賣所

古銅鐵買入所

分

履物傘類

紙簿類

小間物類

札幌區南三條西三丁目
齋藤廣吉

材木商

銘木各種

挽割材木色々

今家地與八郎

札幌區南五條西二丁目一番地
(電信略號ヤマロ)

卸小賣

◎北海道第一の良新聞紙

北海道毎日新聞

每週教育週報と農事週報とを附録として發行し
毎日面白き講談七頁と漫談回を載ねて發行す

◎新聞代一ヶ月分郵税共金五拾錢

◎廣告料一行金貳拾錢三回以上割引あり

發行所 札幌區大通西三丁目六番地

活版印刷及製本

大小共大勉強
遠方送方注意

札幌大通西三丁目六番地

札幌活版印刷所

各地 井 商店

吳服太物 西洋織物 洋小間物 洋服 御進物用美裝 商用品切手 雜貨種々

越後國三條町 今井 本店
 札幌南一西一 今井 吳服店
 全南一西二 今井 洋物店
 小樽色内町 今井 支店
 西尾末廣町 今井 支店
 札幌旭川 今井 支店
 空知那須川 今井 支店
 室蘭札幌通 今井 支店
 東京村松町 今井 仕入店
 大坂盛町二丁目 今井 仕入店

◎ 札幌第一 〇 札幌川邊
 札幌區北二條東三丁目九番地
 電話 築設中

SAPPORO WINE
 SAPPORO BRANDG
 BREWED
 BY
 HICHITARO TANE
 KITA-NIJO. HIGASHI-SANCHOME
 SAPPORO
 HOKKAIDO JAPAN

札幌葡萄酒
 札幌葡萄酒
 武蘭埵

吳服太物
西洋織物
諸仕立物
薦外套廻
肩掛被布
糸綿組物

正杜



藤本屋

○扱品ハ尤モ斬新流行向澤山取揃置候

札幌區南一條西三丁目

○多少共御用向被仰付度奉願上候

株式會社北海銀行

資本金參拾萬圓

本店所在地 石狩國札幌區南一條西三丁目九番地
支店所在地 樺志國小樽區色内町十九番地
爲替取組先

預金 各欄要ノ地

定期預金
當坐預金
小口當坐預金

二六ヶ月以上
日 日
日 日

六分五厘
五分五厘
壹錢貳厘
壹錢五厘

營業科目

和漢洋藥品
 各國有名賣藥
 繪具染料職工用品
 化粧料及香具類
 醫療及調劑用器械
 消毒材料用品
 寫真器械及材料
 石版印刷用材料
 東京牛痘館製造
 牛痘苗特約店

札幌區南一條西一丁目
 本店秋野保全堂

の

電信略號 一の

支店秋野保全堂

札幌區南一條西四丁目

米雜穀之物店

札幌區南一條西一丁目十三番地

サ

新田織之助商店

(電信略號 ニンタ)

北海道新聞中最モ驚ク
可キ發達進步ヲナセルモノ

記事精確報道迅速
講談小説逸品ヲ以テ鳴ル

北海時事

發行所

札幌北四條
西二丁目二番地

北海時事社

新聞代

一月料金三拾錢
半年前金引金壹圓七拾貳錢
一年前金引金三圓二十四錢

郵一部五厘

廣告料

一回以上引金拾錢
三回以上引金拾ニス

和洋

御 葉 子



元 利 久



札幌南一條西四丁目

本店 鈴木虎吉

全南一條西三丁目

支店 武川實

小樽色内町

支店 鈴木吉之助

印版所

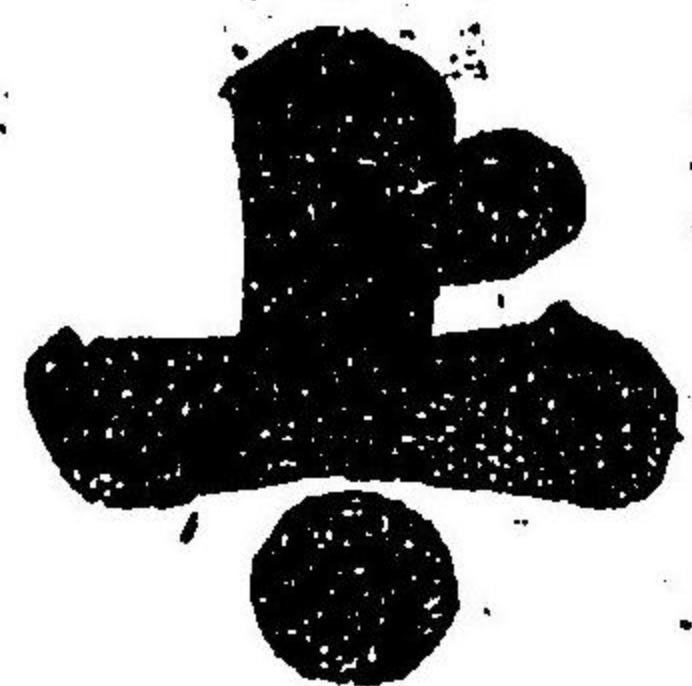
金銀 寶石 水昌印 各種
 精良 象牙 水牛印 各種
 西洋木版 郵版 廣告版 各種

札幌南二條西四丁目十一番地

諸官衙
 御用  安西一刀堂
 安西支店

札幌南二條札幌商館

彫刻、精巧妙技 永久保持
 局製朱肉及諸印肉販賣
 御名刺特別廉價印刷



萬小間物類

札幌
 小
 5
 5

小樽色内町

喜多嶋支店

喜多嶋慶次郎

札幌南一條西二丁目

- ◎各炭山御用輕便運炭車ハ當所獨特ノ長技ニシテ堅牢無比
- ◎土工用輕便小車ハ實檢ト技挿トニヨリ製造シタルモノナレハ至極便益
- ◎木挽機械ハ製造及据付共凡テ熟練ナリ

工 札幌器械製造所

- ◎瀧機瀧鑑ハ細大ノ區別ナク御需ニ應ズ
- ◎海陸諸機械一式

附言

當所ハ諸般ノ機械數十臺備付アルヲ以テ完全迅速低廉ニ圖進ス

札幌區大通東四丁目

電報略符(イカキ)

廣告

各位益々御壯榮之段奉欣賀候
 次ニ弊店儀從來諸馬具類并革
 具類製造營業罷在候處大方各
 位ノ御引立ヲ以テ追日盛大ニ
 趣キ候段深ク奉鳴謝候就テハ
 右御禮トシテ今回大ニ業務ヲ
 擴張シ精實ヲ主トシ品物ヲ精
 撰シ當分ノ内總テ實費販賣仕
 候間多少ヲ論セス御用向仰付
 ラレ候様此段謹奉願上候以上

札幌南四條東三丁目十二番地
 馬具製造所 宮島留治

各位御中

萬鐵物商店

農商務省第二五六〇號

專賣特許

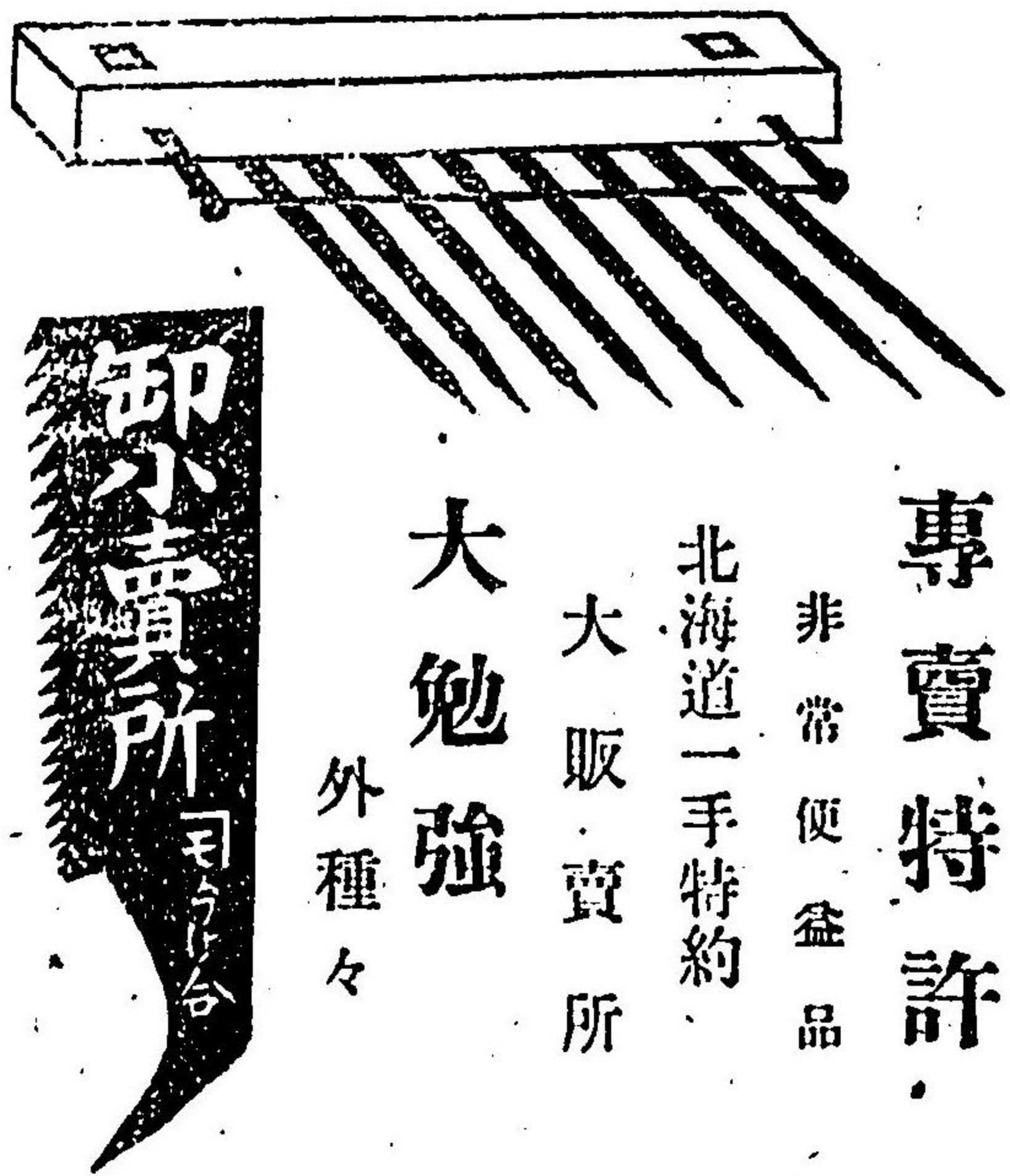
非常便益品

北海道一手特約

大販賣所

大勉強

外種々



北海道白狩國札幌區南三條西二丁目
 毛鹽崎勝郎

◎米利堅粉
◎水飴製造
◎札幌製粉
其他菓子原料なんでも

和洋砂糖卸商

札幌南一條西四丁目廿一番地

◎米雜穀大販賣
⊕ 石田幸八

電話架設中(電信器號イシヨ)

◎御詔御紋付類
札幌南五條西四丁目七番地

◎模様物小紋更
伊藤染舗

紗類印半纏類
小樽花園町十八番地

興行用幕幟
伊藤支店

商號

与 阿部與之助

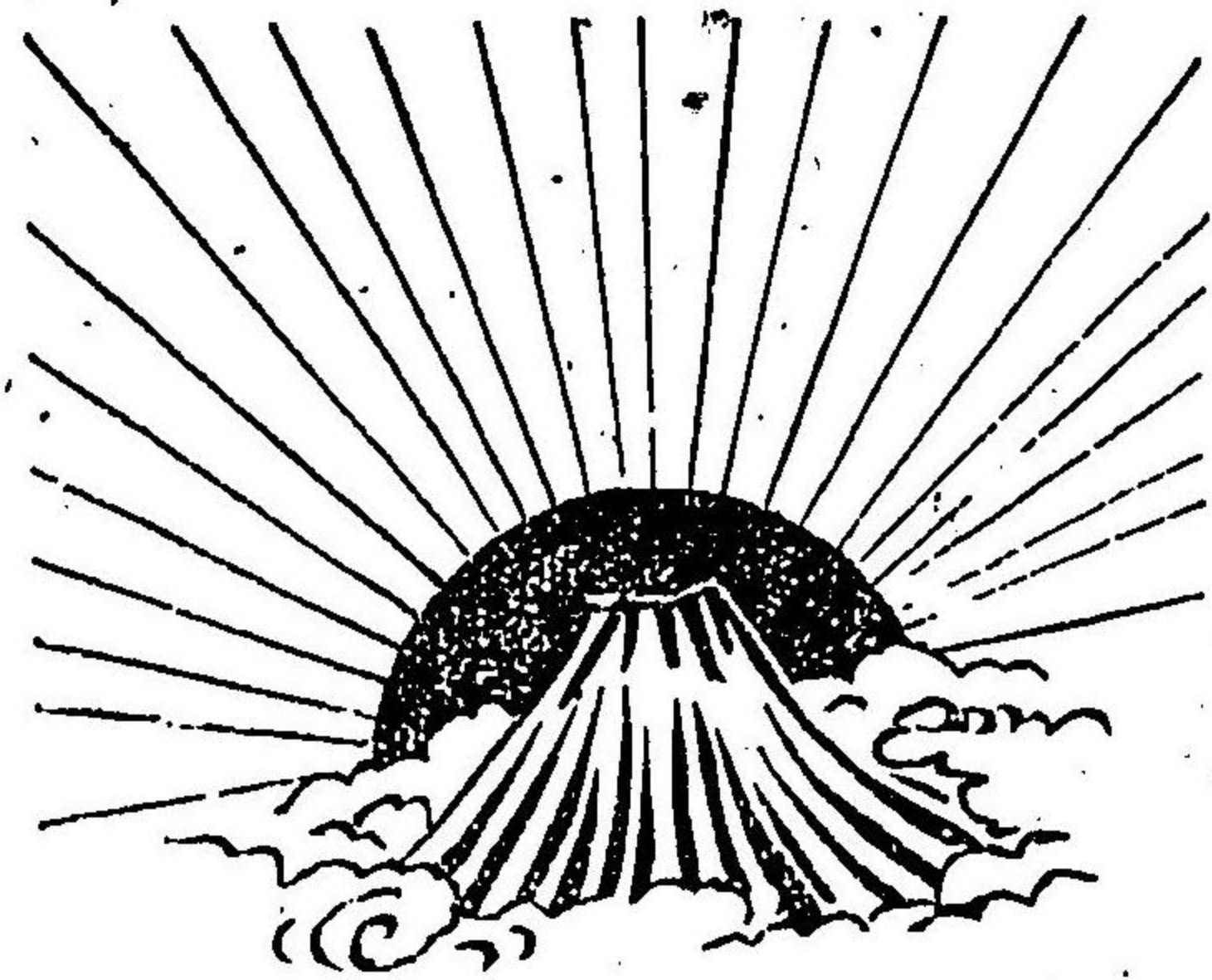
石狩國札幌郡豐平一番地

(電信畧號力子三)

土木建築 請負業
並ニ物品

米穀荒物 卸小賣
木材軟石

最上清酒



日出

札幌郡豐平九番地

齋藤秀松 謹製

馬具製造 太販賣

〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
ひきてろ ナ網類
ひしつなねん 皮買入所

小 高畑幸吉
石狩國旭川本町十丁目
(電信略號マカニ)

吳服太物洋反物
和洋小間物其他種々



太田支店
(發信略號オラタ)

石狩國上川郡旭川本町十二丁目
伊勢屋號

塗物建築具類販賣

商號
大の屋 中村初藏
石狩國上川郡旭川本町十二丁目右十號

乾物類各種食品

味噌醬油 和洋銘酒
卸 小 賣
勉 幸 強

石狩國旭川本町三十丁目
福田商店
(電信略號カコ)

精釀醬油味噌

登錄商標



阿波煙草各種
各國太物仕立物卸商

石 井 大
旭 國 井
川 支 內 井

(電 信 路 符 十 十)

正 善 實

農 產 物 買 賣

米 穀 荒 物 大 販 賣
銃 床 木 製 造

上 川 郡 旭 川 市 忠 別 町
澤 口 善 助

(電 信 路 號 十 十)

米穀物類 農產物類 和洋酒類 履物類 德島產物 同出產物 石符國上川郡旭川忠別町五丁目
卸小賣 一手販賣 米倉金五郎 (發電名義ヨキ)

西洋形 日本形 山刀鐮 鐵板細工 馬車金物 石符國上川郡旭川忠別町六丁目
製大造 販賣 鐵工場 佐藤初太郎 (電信號サト)

米穀物類 農產物類 洋酒類 和洋小間物

銘酒千種 銘葉二安 廣島桑田 宇治宮林 銘茶 特約大販賣 特約一手捌

石符國上川郡忠別町六丁目
野崎商店 (登電符ノサキ)



靴製造販賣所
 上川郡旭市街別町七目右九
 松井製靴所

米雜穀荒物商

上川郡永山番外地
 紀之國屋

(發電名義〇キ)

注意 石狩國上川郡永山番外地
 山口旅店
 勉強 (電信略號ヤマロ)

和漢洋藥各國有名
 賣藥繪具染艸
 洋酒罐詰類

井能代藥舖
 石狩國上川郡永山村市街
 (電信略號ノレロ)

吳服太物
 商石林商店
 石狩國上川郡永山村番外地
 (電信略號ホンカチイ)

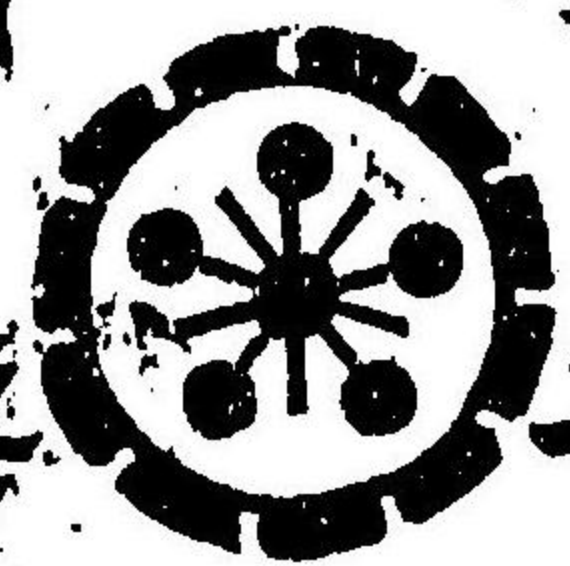
米雜貨
 商石林荒物店
 全國全郡全村番外地
 (電信略號シンカチイ)

古仕立物
 着商筒井商店
 石狩國上川郡永山村番外地
 永樂屋事
 (電信略號ツ、井)

函館酒
 北海關
 釀造元販賣店

諸國農產
 漆器陶器
 和洋服古物各種
 吉川商店
 石狩國夕張郡長沼村市街
 (電信略號シロ)

有權
香標



酒銘加

我川

石狩國清眞布
釀造元

小西酒造場

(電信局號ヨニシ)

販賣所各地到ル
所ニ在リ



穀米

物荒萬

類荳洋西

種各品料食

器陶器添物金

所賣販大強勉大

三

地街市村沼長郡張夕國狩石

店商木三

(モミナ號略信電)

伊

伊坂竹造

(電信略號イ)

日鐵道用枕木賣買
土木建築請負業
各種材木賣買
薪炭賣買

石狩國夕張郡長沼村

市街地

正實

◎衣類 ◎洋服 ◎毛布
◎蒲團 ◎古靴 ◎外各種

中村古着商店

石狩國夕張郡長沼村市街地

中村支店

號略信電
カナ

勉強

◎海陸省御拂下品一式
◎東京直仕入 卸小賣

農産物木材商
米穀荒物類



中嶋定六

(電信略號ナカ)

石狩國空知郡滑真布停車場前

◎吳服太物類
◎和洋小間物類
◎和洋煙草類
◎洋酒鐘詰類

信 商生 店田

◎米穀荒物類
◎農產物賣買
◎各國有名賣藥
◎柏木皮賣買

(クイ號器信電)

石狩國夕張郡長沼村市街地

正 吳服太物
◎和洋織物
◎諸仕立物
◎和洋小間物

不 龜宿商店

電信器號
ヤネカ

實 和洋賣各種
◎和洋酒鐘詰
◎米穀荒物
◎農產物賣買

石狩國夕張郡長沼村市街

勉 萬吳服太物
◎和洋織物
◎諸仕立物
◎小間物類

松宮商店 (電信略號)

長沼村市街地

◎萬荒物類
◎洋酒鐘詰
◎教科書一式
◎和洋煙草

明治生命保險株式會社代理店

三 岩波太物商

鐵道貨物栗山早達組扱所

石狩國 夕張郡 栗山驛 村田三次

誠實ハ無形之資本
生雜 業 專 業

勉強ハ信用之基礎

石狩國夕張郡栗山停車場前
洋 八田鐵次郎

(電信器號ハカ)

◎ 數ヲコナス實地ノ大勉強 ◎
 ◎ 今般小樽表ヨリ御當地へ開店シ雜穀
 買入ヲ主トシ併セテ米鹽噌雜貨荒物
 類販賣精々品質ヲ撰ミ世間無比ノ薄
 利ヲ以テ數デコナスノ主義ヲ執リ賣
 捌可申殊更農産物ノ買入ハ大々勉強
 御取次同様些少ノ口錢ニテ買入仕候
 間多少ニ拘ラス陸續御來店御引立ア
 ランコナ

石狩國夕張郡栗山停車場前
藤瀬商店
 (電信零號トセ)

◎ 農産物ハ何デモ買マヌ ◎

誠 實
 誠 實 石狩國夕張郡栗山
 停車場通リ
神保旅館
 鉦床木及枕木 (電信零號
 仲買商) (ホ)

米 穀 荒 物 類
 ●和○諸○和○學
 ●洋○國○洋○校
 ●小○有○酒○文
 ●間○名○鐘○房
 ●物○賣○詰○具
 ●類○藥○類○類

石狩國夕張郡栗山停車場前
山崎商店
 (サマヤ號零信電)

注意 勉強
 旅人宿
 各新聞賣捌
 石狩國夕張郡栗山停車場前
池畑彦兵衛
 (八ケイ號略信電)

鐵道貨物取扱業
 △札樽共同運送組 (電信略號)
 △共立栗山組 (全クク)
 北海道製麻株式會社栗山製線所貨物取扱
 石狩國夕張郡栗山停車場前
 取扱主任 **濱谷政次郎**

米穀荒物類 吳服太物類
 和洋小間物類 金物陶器類
 銘酒、味噌、醬油類其他
 日用品各種 **卸小賣業**

石狩國夕張郡栗山街
友成商店
 (電信略號〇ト)

米穀味噌醬油 ●萬荒物類
 農産物買買 ●吳服太物類
 和洋小間物類 ●洋酒、酒、鐘、詰

石狩國夕張郡栗山街
卸小賣業
酒喜商店
 (電信略號サカ)